

教育委員会の権限に属する事務の 管理及び執行の状況に係る点検・ 評価に関する報告書

(平成30年度事業分)



令和元年9月
雲仙市教育委員会



雲仙市教育方針

雲仙市教育委員会は、広く市民の理解、協力、参画のもとに、「明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくり」を推進する。

このため、人間尊重の精神を基調として、生涯を通じて学び、郷土を愛し、郷土の自然・歴史・文化に誇りを持ち、国際社会に貢献できる調和のとれた個性豊かな人間の育成を図る。

特に、教育に携わる者は、その使命感に徹し、自らの識見を高めるとともに、深い教育愛とすぐれた指導力を身につけ、相和して本市教育の充実発展に努める。

雲仙市教育努力目標

- ふれあい、学びあい、認めあう生涯学習の推進
- 豊かな心と自ら学ぶ力をはぐくむ学校教育の実現
- 明るい社会をつくる人権・同和教育の推進
- 夢と希望をもち、たくましさ・やさしさを身につけた青少年の育成
- 郷土の豊かさをはぐくむ芸術・文化の振興
- 健康で明るく、たくましい心とからだをはぐくむ生涯スポーツの振興
- 国際性豊かな人づくりの推進

目 次

1. はじめに		P 1
2. 雲仙市教育委員会の活動状況		P 2～7
(1) 教育委員会の構成		
(2) 教育委員会及び教育委員の主な活動報告		
①教育委員会開催		
②教育長及び教育委員による学校訪問		
③その他の活動		
3. 雲仙市教育振興基本計画体系図		P 8
4. 点検及び評価の概要		P 9
(1) 点検及び評価の対象		
(2) 点検・評価方法		
5. 「施策の方針」の自己評価結果		P 9
6. 主要施策に係る点検評価シート		
(1) 教育環境の整備		P 10～12
①小・中学校施設の整備		
②社会教育施設等の整備		
③情報教育環境の整備		
(2) 学校教育の充実		P 13～20
①確かな学力を育成する教育の推進		
②豊かな心を育む教育の推進		
③学校体育の推進		
④健康安全教育の推進		

⑤特別支援教育の推進	
⑥教育相談事業の推進	
⑦国際理解教育の推進	
⑧安全・安心な学校給食の提供と食育の推進	
(3) 生涯学習の推進	………… P 21～24
①青少年の健全育成の推進	
②読書環境の充実	
③多様な生涯学習プログラムの実施	
④人権啓発活動の推進	
(4) 文化芸術の振興と歴史の継承	………… P 25～30
①文化芸術活動の推進	
②伝統的建造物群保存地区事業の推進	
③重要文化財 旧鍋島家住宅の公開活用	
④伝統文化の継承	
⑤文化財保護啓発の推進	
⑥埋蔵文化財の保存活用	
(5) スポーツの振興	………… P 31～34
①運動・スポーツ活動の日常化の推進	
②スポーツの競技力向上	
③ジュニアスポーツの推進	
④快適な活動の場の提供	
7. 学識経験者の所見	………… P 35～38

1. はじめに

雲仙市教育委員会では、「明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくり」を推進するために、雲仙市教育方針や努力目標を掲げ、様々な取組を進めてまいりました。さらに平成28年4月に、平成28年度から平成32年度までを計画期間とする「雲仙市教育振興基本計画」を策定し、この計画を教育行政推進の基本と位置づけ、その目標達成に向け様々な施策を展開しています。

さて、雲仙市教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書を作成し、雲仙市議会に提出するとともに、市民の皆様公表しているところです。

これは、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、同法第26条の規定に基づき、平成19年度事業分から点検・評価が義務付けられたものです。

今年で12回目となりますが、一昨年からは「雲仙市教育振興基本計画」における主要施策の進捗状況（平成30年度事業分）を点検・評価の対象とし、併せて教育委員会の活動状況を報告いたしております。

また、同法第26条第2項により、点検・評価を行うに当たっては、教育に関し、学識経験を有する者の知見の活用を図ることとなっていることから、元雲仙市立鶴田小学校長 江川儀平 氏に所見をいただいております。

雲仙市教育委員会では、今回の点検・評価及び 江川儀平 氏の所見を基に教育委員会の活性化及び事務事業の推進など、教育行政の担い手としての役割を発揮し、更なる教育の充実に努めてまいる所存です。

令和元年 9月20日

雲仙市教育委員会

2. 雲仙市教育委員会の活動状況

雲仙市教育委員会の会議は毎月1回、定例会を開催するほか、必要に応じて臨時会を開催し、施策や事業の効果的・効率的な実施や緊急な課題への適切な対応を図るための協議等を重ねています。

定例会教育委員会の会議以外の活動では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に基づき、総合教育会議（2回）において教育行政が抱える諸問題に関し市長との協議を行いました。また学校訪問等を通じて、教育行政運営に関する課題等を把握するとともに、その他の活動にも積極的に参加するなど、教育行政の中心的な役割を担い、教育施策の推進を図りました。また、平成30年度からは、定例会議の透明化を図るため、市のホームページで議事録の公表をはじめました。

（1）教育委員会の構成（平成31年4月1日現在）

区別	氏名	年齢	任期	
			任命年月日	満了年月日
教育長	山野 義一	64	平成29年 3月1日	令和2年 2月29日
教育委員 (教育長職務代理者)	前田 眞一	65	平成30年12月2日	令和4年12月 1日
教育委員	平山田鶴子	58	平成27年12月2日	令和元年12月 1日
教育委員	中村 妙子	62	平成29年12月2日	令和2年12月 1日
教育委員	森下 祐樹	47	平成29年12月2日	令和3年12月 1日

（2）教育委員会及び教育委員の主な活動報告

①教育委員会開催

平成30年度は、定例会を12回、臨時会を1回開催し、教育長に委任された教育に関する事務の執行の状況を確認するとともに議案40件、報告事項6件について審議等を行いました。

会議名 (開催日)	種別	主 な 審 議 事 項
第1回 定例会 (4月25日)	報告	雲仙市社会教育委員の委嘱について
	報告	雲仙市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について
	議案	雲仙市新小浜体育館（仮称）新築工事設計業務プロポーザル審査委員会設置要綱の制定について

会議名 (開催日)	種別	主 な 審 議 事 項
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について（動産の買い入れについて）
	議案	雲仙市新小浜体育館（仮称）新築工事設計業務プロポーザル審査委員会委員の委嘱について
	議案	みずほ温泉千年の湯あり方検討委員会委員の委嘱について
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について（平成29年度雲仙市一般会計補正予算（第7号）案について）
第2回 定例会 (5月29日)	報告	雲仙市新小浜体育館（仮称）新築工事設計業務プロポーザル審査委員会委員の委嘱について
	議案	雲仙市スポーツ推進委員会規約の一部を改正する規約について
	議案	雲仙市奨学資金貸付審議会委員の委嘱について
	議案	雲仙市教育支援委員会委員の委嘱について
	議案	雲仙市学校給食運営審議会委員の委嘱について
第3回 定例会 (6月26日)		議案なし 教育長に委任された教育に関する事務の執行の状況を確認 （教育長月例報告・各課の取組状況）
第4回 定例会 (7月31日)	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について（雲仙市立小・中学校設置条例の一部を改正する条例について）
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について（平成30年度一般会計補正予算（第2号）について）
	議案	議会に報告すべき議案についての意見の申出について（損害賠償の額の決定及び和解）
	議案	平成31年度使用小学校教科用図書の採択について
	議案	平成31年度使用中学校教科用図書「特別の教科道徳」の採択について
第5回 定例会 (8月20日)	議案	平成29年度事業分に関する「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検・評価に関する報告書」の作成について
第6回 定例会 (9月25日)		議案なし 教育長に委任された教育に関する事務の執行の状況を確認 （教育長月例報告・各課の取組状況）
第7回 定例会 (10月29日)	議案	雲仙市立小・中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について（指定管理者の指定について）

会議名 (開催日)	種別	主 な 審 議 事 項
第 8 回 定例会 (11月21日)	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について (平成30年度一般会計補正予算(第3号)について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について (平成30年度一般会計補正予算(第4号)について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について (動産の買入れについて)
第 1 回 臨時会 (12月3日)	報告	雲仙市教育委員会の構成について
	報告	教育長職務代理者の選任について
第 9 回 定例会 (12月25日)		議案なし 教育長に委任された教育に関する事務の執行の状況を確認 (教育長月例報告・各課の取組状況)
第 1 0 回 定例会 (1月28日)	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について(雲仙市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について)
	議案	雲仙市伝統的建造物群保存地区保存補助金交付要綱の一部を改正する要綱について
	議案	雲仙市小・中学生遠距離通学費補助金交付要綱の一部を改正する要綱について
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について (平成30年度一般会計補正予算(第5号)について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について (平成31年度一般会計当初予算について)
	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について(雲仙市立公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について)
第 1 1 回 定例会 (2月28日)	議案	議会の議決を経るべき議案についての意見の申出について(雲仙市みずほすこやかランド体育施設の設置及び管理に関する条例等の一部を改正する条例について)
	議案	雲仙市立雲仙小学校の統合に係る方針について
	議案	雲仙市中学校部活動費補助金交付要綱の一部改正について
第 1 2 回 定例会 (3月27日)	議案	平成31年度雲仙市立小・中学校教職員人事異動の内申について
	報告	教育委員会事務局職員の人事異動について
	議案	雲仙市学校運営協議会規則の制定について
	議案	雲仙市小・中学生遠距離通学費補助金交付要綱の一部改正について

会議名 (開催日)	種別	主 な 審 議 事 項
	議案	雲仙市立小・中学校統合に係る指定制服等購入費補助金交付要綱の一部改正について
	議案	雲仙市みずほ温泉千年の湯あり方検討委員会要綱の廃止について
	議案	雲仙市立小・中学校共同実施室の設置並びに組織及び運営に関する規程の一部改正について
	議案	雲仙市立学校その他の教育機関の長に対する事務委任規程の一部改正について
	議案	雲仙市スポーツ大会出場激励費交付基準の制定について
	議案	雲仙市芸術文化大会大会出場激励費交付基準の制定について
	議案	雲仙市図書館協議会委員の委嘱について
	議案	雲仙市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について

②教育長及び教育委員による学校訪問

市立小・中学校の学校経営及び学校施設等の整備状況を把握することで、学校教育への理解を深め、学校教育の振興を図ることを目的に、年間を通して計画的に教育長及び教育委員による学校訪問を行い、それぞれの学校の日々の取り組みや施設の状況を確認しました。

期 日	訪 問 校	内 容
平成30年 7月 4日	北串小学校	学校経営概況説明及び質疑応答 学習環境、施設整備状況視察 授業参観など
平成30年10月16日	八斗木小学校	
平成30年11月 6日	南串中学校	
平成31年 1月22日	川床小学校	

③その他の活動

期 日	活動内容	備 考
平成30年 4月 2日	転入教職員辞令交付式	
平成30年 4月 3日	新規採用教職員辞令交付式	

期 日	活動内容	備 考
平成30年 4月 9日	市内中学校入学式	
平成30年 4月10日	市内小学校入学式	
平成30年 5月22日	長崎県市町村教育委員会連絡協議会総会及び研修会	大村市
平成30年 6月 9日 ～10日	雲仙市中学校総合体育大会 球技・武道大会	
平成30年 6月27日	雲仙市中学校総合体育大会 陸上競技大会	長崎県立総合運動公園
平成30年 7月18日	総合教育会議 議題「子供たちを取り巻く環境について」「郷土を守り育てる活動の現状と課題について」	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づく市長との協議
平成30年 7月25日	「社会を明るくする運動」雲仙市中学生弁論大会	
平成30年 7月27日	雲仙市民スポーツ大会総合開会式	
平成30年11月 2日	長崎県民体育大会結団壮行式	
平成30年11月 8日	雲仙市中学校総合体育大会 駅伝大会	長崎県立総合運動公園
平成30年11月 8日	新任教育委員研修会	大村市
平成30年11月 9日	長崎県市町村教育委員会研究大会	大村市
平成30年11月22日	西郷小学校研究発表会	
平成30年12月 1日	雲仙市少年の主張大会	
平成31年 1月 4日	雲仙市成人式	
平成31年 1月 5日	雲仙市消防出初式	
平成31年 1月25日	県道徳教育研究大会	大塚小、吾妻中、吾妻町ふるさと会館
平成31年 2月 1日	総合教育会議 議題「生涯学習、生涯スポーツの環境づくりと課題について」	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づく市長との協議

期 日	活動内容	備 考
平成31年 2月 8日	雲仙市美術展覧会オープニングセレモニー	
平成31年 2月17日	富津小学校閉校記念式典	
平成31年 3月14日	市内中学校卒業式	
平成31年 3月19日	市内小学校卒業式	
平成31年 3月29日	教職員退職者辞令交付式	

3. 雲仙市教育振興基本計画体系図

雲仙市教育方針

明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくり

人間尊重の精神を基調として、生涯を通じて学び、郷土を愛し、郷土の自然・歴史・文化に誇りを持ち、国際社会に貢献できる調和のとれた個性豊かな人間の育成を図る。

特に、教育に携わる者は、その使命感に徹し、自らの識見を高めるとともに、深い教育愛とすぐれた指導力を身につけ、相和して本市教育の充実発展に努める。

施策の方針

主要施策

主な取組

教育環境の整備

安全・安心な教育環境を整備します！

小・中学校施設の整備

- 快適な学習環境づくり
- 学校の防災機能強化

社会教育施設等の整備

- 快適な教育環境づくり
- 安全・安心な環境づくり

情報教育環境の整備

- 時代に応じたICT環境の整備

学校教育の充実

自ら学ぶ力と豊かな心や健康な体を育みます！

確かな学力を育成する教育の推進

- 教職員研修会の充実
- 授業改善のための研究指定事業

豊かな心を育む教育の推進

- 道徳教育の充実
- 小学校間交流学習の推進

学校体育の推進

- 体力向上アクションプランの推進
- 体力向上対策研修会の開催

健康安全教育の推進

- フッ化物洗口事業
- 通学路の安全確保

特別支援教育の推進

- スクールサポーター配置事業
- 特別支援学級・通級指導教室の設置

教育相談事業の推進

- 児童生徒サポートセンター事業
- 親子ホットライン事業

国際理解教育の推進

- ALT配置事業

安全・安心な学校給食の提供と食育の推進

- 食育の推進
- 学校給食センター施設の整備

生涯学習の推進

生涯にわたって学べる環境をつくります！

青少年の健全育成の推進

- 地域が一体となった青少年健全育成の推進

読書環境の充実

- 読書活動振興

多様な生涯学習プログラムの実施

- 学ぶことの喜びと楽しみ体験

人権啓発活動の推進

- 人権意識の推進

文化芸術の振興と歴史の継承

文化芸術を育み、伝統と文化を継承するまちづくりを推進します！

文化芸術活動の推進

- 市民文化活動への支援
- 子どもたちの文化創造体験の充実
- 歴史文化・人的資源の発掘と活用

伝統的建造物群保存地区事業の推進

- 修理修景事業の推進
- 防災に強いまちづくり

重要文化財 旧鍋島家住宅の公開活用

- 公開活用の推進
- 環境整備

伝統文化の継承

- 子どもたちが伝統文化に触れる環境づくり

文化財保護啓発の推進

- 文化財の指定
- 文化財保護の推進
- 文化財の活用

埋蔵文化財の保存活用

- 開発行為等に伴う文化財の発掘調査及び保護

スポーツの振興

スポーツに親しむ環境づくりを推進します！

運動・スポーツ活動の日常化の推進

- 軽スポーツ団体の支援
- ラジオ体操の推進

スポーツの競技力向上

- 体育協会の運営支援
- 補助金等による経済的支援

ジュニアスポーツの推進

- 振興会等団体の活動支援
- 大会出場等の補助

快適な活動の場の提供

- 社会体育施設の適正な管理運営
- 適切な利用のための予約制度の確立

4. 点検及び評価の概要

(1) 点検及び評価の対象

平成28年に策定した「雲仙市教育振興基本計画」の基本方針に基づく個々の主要施策(Plan)を点検の対象とし、その取組状況(Do)を評価検証する(Check)とともに、その事業達成に向け課題を明確化することにより、次年度以降の取組の方向性を示す(Action)、PDCAサイクルによる事務事業の点検及び評価を行います。

(2) 点検・評価方法

事務の点検及び評価については、各主要施策の取組や達成状況を踏まえ、進捗状況を5段階[A(5点)～E(1点)]で示し、それを平均したものを「施策の方針」の進捗状況としました。

「施策の方針」の評価区分	ランクの数値	主要施策ランク	
計画を上回って進捗	4.6 以上	A	5
計画どおり進捗	3.6～4.6 未満	B	4
一部課題はあるが概ね計画どおり進捗	2.6～3.6 未満	C	3
計画が、全体的に遅れがある	1.6～2.6 未満	D	2
計画の多くが未達成又は見直しが必要	1.6 未満	E	1

※「施策の方針」の評価＝主要施策ごとの点検シートのランクの数値合計÷主要施策数

5. 「施策の方針」の自己評価結果

雲仙市教育振興基本計画における各主要施策の取組や達成状況を踏まえた、「施策の方針」の自己評価結果（平成30年度事業分）は、以下のとおりとなりました。25の主要施策数のうちAランクが0施策、Bランクが17施策、Cランクが8施策、Dランクが0施策、Eランクが0施策となっております。

施策の方針	評価結果	主要施策数
教育環境の整備	B（平均3.7点）	3施策
学校教育の充実	B（平均3.6点）	8施策
生涯学習の推進	B（平均4.0点）	4施策
文化芸術の振興と歴史の継承	B（平均3.7点）	6施策
スポーツの振興	B（平均3.8点）	4施策

6. 主要施策に係る点検評価シート

(1) 教育環境の整備

点検評価シート

担当課 総務課

基本方針	教育環境の整備	主要施策 1	小・中学校施設の整備
達成目標	- 各学校で学校施設の定期的な安全点検を実施し、危険箇所の改修等により児童生徒の安全を確保する。 - 学校施設整備事業計画を作成し、快適に学習できる環境を整備する。 【校舎と体育館の外壁の耐震化率の向上(H26) 26%→(H32) 50%以上】		
30年度の取組状況	○ 快適な学習環境づくり 小・中学校の安全で安心な教育環境を維持するため学校施設整備事業計画をもとに学校施設の修繕、改修工事等を実施した。 【小・中学校施設大規模改修事業】 西郷小学校屋内運動場床改修工事 (19,294千円) 大塚小学校校舎屋上防水改修工事 (24,566千円) 土黒小学校校舎屋上防水改修工事 (19,839千円) 吾妻中学校校舎西棟屋上防水改修工事 (18,301千円) 【小・中学校施設単独整備事業】 小学校施設単独整備事業 (93件・50,093千円) (うちブロック塀撤去改修工事 6件 16,246千円) 中学校施設単独整備事業 (44件・19,962千円) (うちブロック塀撤去改修工事 4件 3,280千円) ○ 学校の防災機能強化 老朽化した校舎や体育館の外壁(非構造部材)の耐震補強を実施し、防災機能の強化と、安全安心な教育環境の整備を行った。 【学校施設環境改善交付金事業(小・中学校)】 千々石中学校屋内運動場外壁改修工事 (39,928千円) ※ 校舎と体育館の外壁の耐震化率 37%(平成30年度末現在)		
評価検証及び課題	- 快適な学習環境づくりに向けた整備については、雨漏り対策として屋上防水工事を3校と西郷小学校屋内運動場床改修工事を行ったが、計画していた小浜小学校校舎①-2棟屋上防水改修工事については、校舎①-4棟の屋上防水改修工事と合わせて施工することに計画を変更し、今年度の施工を見送った。 - また、大阪北部地震で発生したブロック塀の倒壊事故を受け、市内小・中学校のブロック塀の緊急点検を行い、危険と思われるものから順次撤去工事を行った。 - 学校の防災機能強化については、国の学校施設環境改善交付金の採択を受け千々石中学校屋内運動場外壁改修工事を計画通り完了している。 どちらの取組も建築から40年を超える学校施設が多いため、改修に掛かる予算の確保が目標達成に向けた今後の課題である。		
自己評価	C	A:計画を上回って進捗 B:計画どおり進捗 C:一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D:計画が全体的に遅れ E:計画に大幅な遅れ又は見直しが必要	
次年度以降の取組	「快適な学習環境づくり」については、小中学校の普通教室と一部の特別教室へ空調設備の整備を優先的に行うと共に、引き続き屋上防水工事等の大規模改修工事と単独整備事業を進め教育環境の改善に努める。 「学校の防災機能強化」については、国庫補助及び起債の活用など財源を確保しながら引き続き外壁改修に取り組んでいく。		

方針 基本	教育環境の整備	主要施策 2	社会教育施設等の整備
達成 目標	・施設の適切な維持管理を行うとともに老朽化した施設の改修を行う。 【老朽化した施設改修の実施 愛野町公民館及び図書館[愛野コミュニティセンター（仮称）内]、南串山図書室を平成32年度までに整備する。】		
30 年度 の 取 組 状 況	○ 快適な教育環境づくり 社会教育施設等の整備 愛の夢未来センター整備【建設は政策企画課が担当】 建設工事に着手している。（令和元年度完成） 南串山図書室整備【建設は政策企画課が担当】 南串山図書室の建物が完成し、平成30年4月からオープンしている。		
	○ 安全・安心な環境づくり 社会教育施設等の耐震診断 新小浜体育館建設事業【令和元年度へ繰越し、継続して行っている】 小浜体育館の耐震診断結果に伴い、新小浜体育館建建設を決定している。 事業は、基本設計業務を完了し詳細設計に着手している。 瑞穂体育館耐震補強改修工事実施設計業務（2,160千円） 瑞穂体育館耐震診断結果に伴い、耐震補強工事の実実施設計業務を行った。		
評価 検証 及び 課題	・愛の夢未来センター及び南串山図書室については、建設自体は政策企画課が担当し行っており、生涯学習課において運営に必要な備品等についての検討と南串山図書室のオープンを行った。 ・小浜体育館は、耐震診断業務での診断結果を受け、スポーツ振興課で建替えの方針を示し、基本設計を終え詳細設計を行っている。 ・瑞穂体育館については、耐震診断を終え耐震補強工事の実実施設計を行った。		
自己 評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れがある E：計画の多くが未達成又は見直しが必要	
次年度以降の 取組	・愛の夢未来センターの整備とオープンを行う。 ・小浜体育館の建替えにあたり、詳細設計を終え建設工事の着手を行う。 ・瑞穂体育館は耐震診断の結果を基に耐震補強工事の実実施設計を終えたが、施設の個別計画の方針が定まるまで保留とする。		

基本方針	教育環境の整備	主要施策 3	情報教育環境の整備
達成目標	・パソコン、電子黒板等情報機器の整備を図り、時代に応じたＩＣＴ環境を整備する。 ・電子教科書の導入検討を行う。 ・普通教室の電子黒板整備率(H26) 11%→(H32) 100%		
30年度の取組状況	○ 時代に応じたＩＣＴ環境の整備 整備計画に沿って市内小中学校の児童生徒用パソコン、教職員用パソコン等の更新及び電子黒板等情報機器の導入を行う。 【教育環境整備事業（小・中学校）】 デジタル教科書整備（5,827千円） 小学校 19校 国語・算数 中学校 7校 数学・理科・英語 【教育環境整備事業（小・中学校）】 電子黒板関連機器整備事業（43,697千円） 小学校 18校 30台 、 中学校 7校 32台 計62台 整備内容 ・電子黒板機能付き超短焦点液晶プロジェクター ・スタンド一体型スクリーン ・プロジェクター台 ・書画カメラモード搭載デジタルカメラ ・デジタルカメラ取付用アーム ・HDMIケーブル及びコネクター 一式 ・デジタルカメラ用低反発メッシュケース ・ノートパソコン ・雷ガードタップ ※ 普通教室の電子黒板整備率 67%（平成30年度末現在）		
	評価検証及び課題	・学校パソコン機器整備については、平成26年度から平成30年度までの5カ年の更新計画を1年前倒して完了している。 ・デジタル教科書の導入については、小学校に国語・算数、中学校に数学・理科・英語を選定し予定通り導入した。 ・普通教室及び理科室の電子黒板整備については、中学校を予定通り整備完了、小学校に30台整備し、整備率67%を達成した。	
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要	
次年度以降の取組	・前年度に前倒してパソコン更新計画が完了したことから、平成30年度と平成31年度の2年間で全普通教室と理科室に配置できるよう電子黒板の整備を進めている。 ・デジタル教科書については、平成30年度に小学校へ国語・算数、中学校へ数学・理科・英語を導入し、令和元年度からは小学校に理科・社会を追加し、中学校に国語と社会を追加する。		

(2) 学校教育の充実

点検評価シート

担当課 学校教育課

基本方針	学校教育の充実	主要施策 1	確かな学力を育成する教育の推進																												
達成目標	・全国学力・学習状況調査において、小学校は全国平均正答率、中学校は県平均正答率を上回る。 【小学校（H27）全国比-4.9~-0.4 → （H32）全国平均】 【中学校（H27）県比-4.4~-2.2 → （H32）県平均】																														
30年度の取組状況	○学力向上対策研修会 前年度の課題解決に向け外国語教育推進に特化した研修を実施した。 第1回（H30.5.30実施） ・全体講義「これからの外国語教育推進について」 ・小・中学校別協議「課題の整理及び重点指導項目の設定（中学校）」 第2回（H30.10.16実施）公開授業：千々石中 ・中学校（1年生）における英語科研究授業公開及び授業反省会 ・県教委指導主事による指導助言及び講義 第3回（H31.2.12実施） ・市学力調査（12月実施）結果に対する市の成果と課題の共有 ・小学校：県教委指導主事による講義「外国語教育推進について」 ・中学校：各校における市学力調査「英語科」の分析結果の報告及び協議 ○研究指定事業 ・西郷小（国語）、小浜小（算数）、国見中（教科全般）を研究指定校とした。 ・各校は公開授業を3～5回実施し、指導主事が事前事後も含め助言を行った。 ・西郷小は、研究発表会を開催し、市内外より多くの教職員が参加した。 ○学力調査事業 ・平成30年12月18日に実施した。対象学年を小学2年～中学2年とし、国・県調査で確認することができない学年も含め実施することで本市児童生徒の学力を把握する新たな検証軸となった。 * H30全国学力・学習状況調査結果【小6・中3】（ ）は全国平均正答率との差 <table border="0"> <tr> <td>小学校 国語A</td><td>69.7 (-1.0)</td> <td>国語B</td><td>54.7 (±0.0)</td> </tr> <tr> <td>算数A</td><td>64.9 (+1.4)</td> <td>算数B</td><td>51.2 (-0.3)</td> </tr> <tr> <td>中学校 国語A</td><td>75.2 (-0.9)</td> <td>国語B</td><td>57.3 (-3.9)</td> </tr> <tr> <td>数学A</td><td>63.6 (-2.5)</td> <td>数学B</td><td>42.1 (-4.8)</td> </tr> </table> 小学校では、算数において基礎的な知識を問うA問題で全国平均を上回り、他の調査でもほぼ全国平均と同程度となっている。中学校においても、A問題では全国平均に近づいている。しかしながら、「根拠を明記しながら文章や式を解答する」「自分なりの意見を記述する」などの活用に関するB問題において課題がある。 * H30県学力調査結果【小5・中2 ただし英語は中3】（ ）は県平均正答率との差 <table border="0"> <tr> <td>小学校 国語</td><td>63.1 (+4.6)</td> <td>算数</td><td>65.9 (+3.4)</td> </tr> <tr> <td>中学校 国語</td><td>64.9 (-0.4)</td> <td>数学</td><td>52.3 (-0.8)</td> </tr> <tr> <td>英語</td><td>49.2 (-3.9)</td><td></td><td></td> </tr> </table> 本市児童生徒の県学力調査の正答率は、小学校においては県下で上位に位置している。中学校においては、県平均を下回っている。特に中学3年生対象の英語では、今回も県平均を大きく下回った。外国語教育の一層の充実を図るため、今後も英語に焦点を当てた研修を実施していく。			小学校 国語A	69.7 (-1.0)	国語B	54.7 (±0.0)	算数A	64.9 (+1.4)	算数B	51.2 (-0.3)	中学校 国語A	75.2 (-0.9)	国語B	57.3 (-3.9)	数学A	63.6 (-2.5)	数学B	42.1 (-4.8)	小学校 国語	63.1 (+4.6)	算数	65.9 (+3.4)	中学校 国語	64.9 (-0.4)	数学	52.3 (-0.8)	英語	49.2 (-3.9)		
小学校 国語A	69.7 (-1.0)	国語B	54.7 (±0.0)																												
算数A	64.9 (+1.4)	算数B	51.2 (-0.3)																												
中学校 国語A	75.2 (-0.9)	国語B	57.3 (-3.9)																												
数学A	63.6 (-2.5)	数学B	42.1 (-4.8)																												
小学校 国語	63.1 (+4.6)	算数	65.9 (+3.4)																												
中学校 国語	64.9 (-0.4)	数学	52.3 (-0.8)																												
英語	49.2 (-3.9)																														
評価検証及び課題	・上記取組により、学力調査への市内25校教員の学力向上に対する意識は向上している。特に「学力＝読み書きそろばん」だけでなく、「学力＝習得した知識・技能を活用して 様々な課題に対処する力」への意識改革が多くの学校で図られてきた。 ・平成30年度に引き続き中学校英語の授業改善及び小学校外国語及び外国語活動の拡充への対応が今後の課題である。																														
自己評価	B A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要																														
次年度以降の取組	・前年度の取組を引き続き実施し、各校における学力向上を図っていく。 ・次期学習指導要領に対する新たな情報を各種研修会や学校訪問にて提供していく。 ・学力向上研修会のテーマを外国語教育推進とし教職員の指導力向上を図る。																														

基本方針	学校教育の充実	主要施策 2	豊かな心を育む教育の推進
達成目標	・全小学校で学校間交流学習を実施する。 【小学校における学校間交流（H26）15校 → （H32）20校】※H31から18校 ・いじめの問題ゼロを目指す。 【小学校いじめ認知件数（H26）17件 → （H32）1件】 【中学校いじめ認知件数（H26）5件 → （H32）0件】		
30年度の取組状況	○ 道徳・人権教育の充実 道徳の教科化（特別の教科 道徳）に向けた取組を推進した。 【研修会】 県教育庁主催「道徳教育地区別研修会」への参加（26名／26校） 市教委主催「道徳教育研修会」への参加（26名／26校） 【県道研授業公開】 【補助金】 大塚小・吾妻中 島原半島地区人権教育研究会（15千円） ○ 小学校間交流学習の推進 宿泊体験学習や修学旅行などを合同で行うことにより、他校児童との交流を深めるとともに、活動費における保護者負担を軽減した。 （H30）16校実施。（社会科見学、理科の合同学習なども実施） ○ 雲仙市子どもの心を見つめる教育週間 保護者や地域住民による授業参観や交流を通して、児童生徒の健やかな成長を図ることを目的として実施した。 【実施期間】 【関係者】 5月から7月の間の一週間 学校訪問者（3,675名） 企画や運営、ゲストティーチャー、安全対策等にかかわった保護者や地域住民（580名） ○ 「いじめを許さない学校」づくり 各学校のいじめ防止対策委員会等の開催を通して、多くの目によるいじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めた。 【研修会】 年2回実施（各学校教頭、生徒指導主事・生活指導主任対象） 【雲仙市いじめ防止アンケートの実施】 市内全小・中学校において「教育週間」中あるいは前に実施した。 【いじめの認知件数】 1学期・・・180件 2学期・・・195件 3学期・・・84件 ○ ジオパーク学習への取組 ジオパークと関連した学習を通し、郷土の自然の美しさや災害への対応、人々の生活の様子を知ること、豊かな情操を育むことを目的とした。 （例）ジオパーク見学活動、雲仙子どもガイド、災害学習など		
評価検証及び課題	・小学校における「特別の教科 道徳」が平成30年度先行実施を踏まえ、学校訪問時の特定授業を指示するなど、授業研究や評価の具体的研修を推進した。 ・いじめの認知件数では、「いじめの定義」の定着により、より多くのいじめが認知されるようになった。目標ではゼロをめざしているが、早期に解決し、いじめ見逃しをゼロをめざすに切り替える。		
自己評価	B A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要		
次年度以降の取組	・県教委主催の道徳研修会に必ず各学校から1名以上の参加させるとともに、各学校における一層の授業改善が図られるよう校長・教頭研修会でも情報提供していく。 ・各学校のいじめ防止対策委員会に、外部委員を必ず任用するなど、いじめ見逃しゼロ及び早期対応を図っていく。 ・小学校間交流学習については、中学校単位でのより効果的な実施を推進していく。		

基本方針	学校教育の充実	主要施策 3	学校体育の推進																		
達成目標	・毎年度、全小・中学校において「体力向上アクションプラン」を作成し、体力・運動能力テストにおいて、小5・中2で全国平均値を3種目以上上回る。 【小学校5年男子（H27）全国平均<6種目 → （H32）全国平均<7種目】 【小学校5年女子（H27）全国平均<5種目 → （H32）全国平均<7種目】 【中学校2年男子（H27）全国平均<2種目 → （H32）全国平均<4種目】 【中学校2年女子（H27）全国平均<4種目 → （H32）全国平均<6種目】																				
30年度の取組状況	○体力向上アクションプラン ・児童生徒の体力の状況は、概ね良好である。また、体力合計点の判定がD・Eの児童生徒や1週間の総運動時間が0分の児童生徒等、各小・中学校の実態に応じて、運動の習慣化や運動量の確保に努めている。 ・小・中学校ともに、課題である「柔軟性の向上」に努め、積極的に「ジャックナイフストレッチ」を準備運動に位置付けし、「柔軟性の向上」を目指している。 ・学校保健委員会等で、生活と運動の関係性を伝え、各校の体力の現状（個人の体力課題も含め）等を保護者にも周知し、課題を共有していく必要がある。 *H30新体力テスト結果 <table border="1" data-bbox="256 1025 1310 1559"> <thead> <tr> <th colspan="2">学年</th><th>全国平均を上回った種目</th><th>全国平均を下回った種目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小5</td><td>男子</td><td>握力、上体起こし、反復横跳び、シャトルラン、50m走、ソフトボール投げ（6種目）</td><td>長座体前屈、立ち幅跳び（2種目）</td></tr> <tr> <td>女子</td><td>握力、上体起こし、反復横跳び、シャトルラン、50m走、ソフトボール投げ（6種目）</td><td>長座体前屈、立ち幅跳び（2種目）</td></tr> <tr> <td rowspan="2">中2</td><td>男子</td><td>握力、上体起こし、反復横跳び、持久走、50m走、立ち幅跳び（6種目）</td><td>長座体前屈、ハンドボール投げ（2種目）</td></tr> <tr> <td>女子</td><td>握力、上体起こし、反復横跳び、持久走、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ（7種目）</td><td>長座体前屈（1種目）</td></tr> </tbody> </table> ○長崎県体力向上支援等事業や武道等指導充実・資質向上支援事業 ・小・中学校の体育・保健体育科担当を中心に、積極的な活用及び参加を促した。			学年		全国平均を上回った種目	全国平均を下回った種目	小5	男子	握力、上体起こし、反復横跳び、シャトルラン、50m走、ソフトボール投げ（6種目）	長座体前屈、立ち幅跳び（2種目）	女子	握力、上体起こし、反復横跳び、シャトルラン、50m走、ソフトボール投げ（6種目）	長座体前屈、立ち幅跳び（2種目）	中2	男子	握力、上体起こし、反復横跳び、持久走、50m走、立ち幅跳び（6種目）	長座体前屈、ハンドボール投げ（2種目）	女子	握力、上体起こし、反復横跳び、持久走、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ（7種目）	長座体前屈（1種目）
学年		全国平均を上回った種目	全国平均を下回った種目																		
小5	男子	握力、上体起こし、反復横跳び、シャトルラン、50m走、ソフトボール投げ（6種目）	長座体前屈、立ち幅跳び（2種目）																		
	女子	握力、上体起こし、反復横跳び、シャトルラン、50m走、ソフトボール投げ（6種目）	長座体前屈、立ち幅跳び（2種目）																		
中2	男子	握力、上体起こし、反復横跳び、持久走、50m走、立ち幅跳び（6種目）	長座体前屈、ハンドボール投げ（2種目）																		
	女子	握力、上体起こし、反復横跳び、持久走、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ（7種目）	長座体前屈（1種目）																		
評価検証及び課題	・児童生徒の体力は全国平均と比較すると、小・中学校ともに良好である。課題は、長座体前屈（柔軟性）である。今後、「体力向上アクションプラン」の実践を通して、柔軟性の向上及び各校の課題に応じた確実な準備運動の実施を展開していく必要がある。 ・部活動における適切な休養日等について、雲仙市立学校の部活動等に係る活動方針を策定し、平成31年度4月から適切な部活動等の推進及びその徹底を図る。																				
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要																			
次年度以降の取組	・柔軟性の向上や各校の課題を踏まえた運動を、授業の準備運動等に位置付ける。 ・雲仙市立学校の部活動等に係る活動方針の推進及び部活動における休養日等については、成長期にある生徒がバランスのとれた生活を送ることができるよう、雲仙市教育委員会が策定した基準を周知徹底していく。 ・ラジオ体操を推進する。																				

基本方針	学校教育の充実	主要施策 4	健康安全教育の推進								
達成目標	- 全小学校でフッ化物洗口を実施し、一人あたりのう歯率を減少させる。 【小学校6年児童（H26）1.45本 → （H32）0.8本以下】 - 毎年度、各学校で通学路安全点検を実施し、危険箇所対応を継続する。										
30年度の取組状況	○ フッ化物洗口事業 全小学校で100%実施。中学校は、平成32年度の完全実施に向け、雲仙市校長・教頭研修会や養護教諭研修会等において、実施予定の旨を伝えている。 島原南高歯科医師会実態調査結果 【一人平均う歯数】 ・小学校（H29）0.7本 → （H30）0.7本 ・小6（H29）1.2本 → （H30）1.3本 ・中学校（H29）2.4本 → （H30）2.4本 ○ 通学路の安全確保 通学路の安全確保のために、平成24年度に各学校に安全点検を行い、平成30年度から平成29年度までに関係機関と連携し、完了していない箇所もあるが、対策を講じた。 今後は、各学校に再度通学路の安全点検の実施を依頼し、対策について検討していく。 【危険箇所報告数】 115箇所 【交通安全推進会議】 1回 【合同点検】 1回 *小中学生の交通事故件数 <table border="1" style="float: right; margin-top: 10px;"> <tr> <td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td></tr> <tr> <td>7件</td><td>9件</td><td>11件</td><td>6件</td></tr> </table>			H27	H28	H29	H30	7件	9件	11件	6件
H27	H28	H29	H30								
7件	9件	11件	6件								
評価検証及び課題	- 小学校におけるフッ化物洗口に対する取組は良好である。今後も適切な取組を推進していくとともに、中学校におけるフッ化物洗口事業推進を図りたい。 - 通学路については、予算等の兼ね合いもありハード面については、対応に時間がかかるが、計画的に対応を講じていくよう関係機関に働きかけをしていきたい。また、学校には、ハード面の対策が講じられるまでは、ソフト面で児童生徒の安全確保に努めるようさらに指導していきたい。										
次年度以降の取組	C A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要 - 中学校へのフッ化物洗口実施に向けた取組を推進していく。 - 通学路については、危険箇所報告数115箇所について、関係部局・機関と連携し精査して対応していく。										

基本方針	学校教育の充実	主要施策 5	特別支援教育の推進																																																																																																																	
達成目標	・障害のある児童生徒の実態に応じた特別支援学級を設置する。 ・全小中学校27校へのスクールサポーターの配置を継続する。																																																																																																																			
30年度の取組状況	○特別支援学級・通級指導教室の設置 【特別支援学級の設置】 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学級種別</th> <th colspan="4">小学校</th> <th colspan="4">中学校</th> </tr> <tr> <th>学級数</th> <th>前年度比</th> <th>人数</th> <th>前年度比</th> <th>学級数</th> <th>前年度比</th> <th>人数</th> <th>前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知的障害</td> <td>13</td> <td>-1</td> <td>25</td> <td>+1</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>13</td> <td>-3</td> </tr> <tr> <td>自閉症・情緒障害</td> <td>10</td> <td>+2</td> <td>19</td> <td>+7</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>-1</td> </tr> <tr> <td>肢体不自由</td> <td>2</td> <td>-1</td> <td>3</td> <td>-1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>言語障害</td> <td>3</td> <td>+2</td> <td>5</td> <td>+2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>病弱</td> <td>2</td> <td>+1</td> <td>2</td> <td>+1</td> <td>1</td> <td>+1</td> <td>1</td> <td>+1</td> </tr> <tr> <td>弱視</td> <td>1</td> <td>+1</td> <td>1</td> <td>+1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>26</td> <td>+2</td> <td>39</td> <td>+6</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>19</td> <td>-3</td> </tr> </tbody> </table> 【通級指導教室の設置】 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">小学校</th> </tr> <tr> <th>学級種別</th> <th>教室数</th> <th>前年度比</th> <th>人数</th> <th>前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>LD・ADHD等</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>42</td> <td>+2</td> </tr> </tbody> </table> ※LDとは、全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示すもの ※ADHDとは、年齢又は発達に不釣り合いな注意力、又は衝動性・多動性が認められ、社会的な活動や学校生活を営む上で著しい困難を示すもの ○スクールサポーター配置事業 配置30名〔小学校19名(2名配置2校)、中学校8名(2名配置1校)〕 【活動内容及び実績(年間)】 ①授業支援 <table border="1"> <thead> <tr> <th>小</th> <th>平均支援時間 (1日あたりの支援時間)</th> <th>588.6時間 (2.9時間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>中</th> <th>平均支援時間 (1日あたりの支援時間)</th> <th>323.0時間 (1.6時間)</th> </tr> </tbody> </table> ②別室登校生徒学習支援 <table border="1"> <thead> <tr> <th>中</th> <th>平均支援時間 (1日あたりの支援時間)</th> <th>5.6時間 (0.03時間)</th> </tr> </thead> </table> ③教育相談 <table border="1"> <thead> <tr> <th>中</th> <th>平均相談回数 (1日あたりの相談回数)</th> <th>61.5回 (0.3回)</th> </tr> </thead> </table> ④図書貸し出し冊数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>小</th> <th>年間貸し出し冊数 (1人あたりの貸し出し冊数)</th> <th>357,492冊 161冊</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>中</th> <th>年間貸し出し冊数 (1人あたりの貸し出し冊数)</th> <th>41,847冊 42冊</th> </tr> </tbody> </table>			学級種別	小学校				中学校				学級数	前年度比	人数	前年度比	学級数	前年度比	人数	前年度比	知的障害	13	-1	25	+1	6	0	13	-3	自閉症・情緒障害	10	+2	19	+7	4	0	5	-1	肢体不自由	2	-1	3	-1	0	0	0	0	言語障害	3	+2	5	+2	0	0	0	0	病弱	2	+1	2	+1	1	+1	1	+1	弱視	1	+1	1	+1	0	0	0	0	合計	26	+2	39	+6	10	0	19	-3	小学校					学級種別	教室数	前年度比	人数	前年度比	LD・ADHD等	4	0	42	+2	小	平均支援時間 (1日あたりの支援時間)	588.6時間 (2.9時間)	中	平均支援時間 (1日あたりの支援時間)	323.0時間 (1.6時間)	中	平均支援時間 (1日あたりの支援時間)	5.6時間 (0.03時間)	中	平均相談回数 (1日あたりの相談回数)	61.5回 (0.3回)	小	年間貸し出し冊数 (1人あたりの貸し出し冊数)	357,492冊 161冊	中	年間貸し出し冊数 (1人あたりの貸し出し冊数)	41,847冊 42冊
	学級種別	小学校				中学校																																																																																																														
		学級数	前年度比	人数	前年度比	学級数	前年度比	人数	前年度比																																																																																																											
	知的障害	13	-1	25	+1	6	0	13	-3																																																																																																											
	自閉症・情緒障害	10	+2	19	+7	4	0	5	-1																																																																																																											
	肢体不自由	2	-1	3	-1	0	0	0	0																																																																																																											
	言語障害	3	+2	5	+2	0	0	0	0																																																																																																											
	病弱	2	+1	2	+1	1	+1	1	+1																																																																																																											
	弱視	1	+1	1	+1	0	0	0	0																																																																																																											
	合計	26	+2	39	+6	10	0	19	-3																																																																																																											
小学校																																																																																																																				
学級種別	教室数	前年度比	人数	前年度比																																																																																																																
LD・ADHD等	4	0	42	+2																																																																																																																
小	平均支援時間 (1日あたりの支援時間)	588.6時間 (2.9時間)																																																																																																																		
中	平均支援時間 (1日あたりの支援時間)	323.0時間 (1.6時間)																																																																																																																		
中	平均支援時間 (1日あたりの支援時間)	5.6時間 (0.03時間)																																																																																																																		
中	平均相談回数 (1日あたりの相談回数)	61.5回 (0.3回)																																																																																																																		
小	年間貸し出し冊数 (1人あたりの貸し出し冊数)	357,492冊 161冊																																																																																																																		
中	年間貸し出し冊数 (1人あたりの貸し出し冊数)	41,847冊 42冊																																																																																																																		
評価検証及び課題	・特別支援教育では、児童生徒の実態を第一に考え、必要な学級を設置することができている。今後さらに児童生徒、保護者、指導者、関係機関との連携を図り、効果的な教育を推進していく。 ・スクールサポーター事業では、学習支援や教育相談、図書司書業務など概ね有効活用が図られている。一方、年度開始時から必要人数に達せず、広報紙等を通じた募集を実施し、予定数の配置が出来るようにした。																																																																																																																			
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要																																																																																																																		
次年度以降の取組	・特別支援教育については、特別支援学級や通級指導教室の設置のみではなく、通常学級に在籍する児童生徒に対しても効果的な教育課程の編成や個別の支援計画、指導計画の作成が図られるようにしていくとともに、特別支援学級担任及び通級指導教室担当者の指導力の向上を図っていく。また、連携機関との関係をさらに深めたい。 ・スクールサポーター事業では、各学校の状況を適確に把握し、効果的な複数配置を推進する。																																																																																																																			

基本方針	学校教育の充実	主要施策 6	教育相談事業の推進																							
達成目標	不登校、学校生活不適應児童生徒や保護者に対して、学校や関係機関との連携を通して、訪問指導や相談などの直接的支援を充実する。 【不登校児童生徒数（H26）14人 → （H32）10人未満】																									
30年度の取組状況	○ 児童生徒サポートセンター事業 学校不適應児童生徒等や本人または家庭に問題を抱えている児童生徒等に対して、学校、関係機関等と連携しながら、訪問指導、面談などの直接的な支援活動を行い、学校復帰や本人または家庭の問題解消を目指した。 【訪問指導員の配置】 1名（2,022千円） 【スクールソーシャルワーカー（SSW）の配置】 1名（県教委からの派遣） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>対応児童生徒人数</th> <th>学校訪問</th> <th>家庭訪問</th> <th>個別指導</th> <th>ケース（ケア）会議</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問指導員</td> <td>15名</td> <td>87回</td> <td>120回</td> <td>317回</td> <td>11（10）回</td> </tr> <tr> <td>SSW</td> <td>23名</td> <td>79回</td> <td>138回</td> <td>109回</td> <td>14（11）回</td> </tr> </tbody> </table>				対応児童生徒人数	学校訪問	家庭訪問	個別指導	ケース（ケア）会議	訪問指導員	15名	87回	120回	317回	11（10）回	SSW	23名	79回	138回	109回	14（11）回					
		対応児童生徒人数	学校訪問	家庭訪問	個別指導	ケース（ケア）会議																				
	訪問指導員	15名	87回	120回	317回	11（10）回																				
	SSW	23名	79回	138回	109回	14（11）回																				
	○ 親子ホットライン事業 子どものいじめ・不登校問題をはじめとする、種々の教育相談に対応することを目的とした。 【電話料金】 【相談回数】 1台（42千円） 保護者（5回）																									
*雲仙市不登校児童生徒数 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>（県）</th> <th>中学校</th> <th>（県）</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28年度</td> <td>2名（0.1%）</td> <td>0.5%</td> <td>21名（1.7%）</td> <td>3.5%</td> <td>23名（0.8%）</td> </tr> <tr> <td>H29年度</td> <td>1名（0.04%）</td> <td>0.5%</td> <td>28名（2.5%）</td> <td>3.0%</td> <td>29名（0.9%）</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>5名（0.2%）</td> <td></td> <td>24名（2.2%）</td> <td></td> <td>29名（0.9%）</td> </tr> </tbody> </table> （H30年度については速報値であり、県の集計は未公表） ※ 不登校とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくてもできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く。）で、年間連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒。				小学校	（県）	中学校	（県）	計	H28年度	2名（0.1%）	0.5%	21名（1.7%）	3.5%	23名（0.8%）	H29年度	1名（0.04%）	0.5%	28名（2.5%）	3.0%	29名（0.9%）	H30年度	5名（0.2%）		24名（2.2%）		29名（0.9%）
	小学校	（県）	中学校	（県）	計																					
H28年度	2名（0.1%）	0.5%	21名（1.7%）	3.5%	23名（0.8%）																					
H29年度	1名（0.04%）	0.5%	28名（2.5%）	3.0%	29名（0.9%）																					
H30年度	5名（0.2%）		24名（2.2%）		29名（0.9%）																					
評価検証及び課題	- 訪問型の対応で学校不適應児童生徒へ細やかに対応できている。また、平成29年8月に千々石庁舎2階に設置した児童生徒サポートセンター相談室の活用が充実し、訪問指導員の個別指導の回数が大幅に増加（前年度比2.0倍）した。 - 児童生徒サポートセンター事業の活用がない児童生徒（学校・保護者等から依頼相談がない児童生徒）への支援とともに、増加傾向にある小学生の学校不適應児童への対応の在り方について検討していく。																									
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要																								
次年度以降の取組	- 今年度実施した、児童生徒サポートセンター相談室利用生徒等による交流活動や不登校児童生徒及びその保護者を対象とした講演会等の各種取組の充実を図っていく。 - 学校や関係機関との連携し、学校不適應児童生徒への早期対応を徹底していく。																									

基本方針	学校教育の充実	主要施策 7	国際理解教育の推進												
達成目標	・小学校においては、新学習指導要領実施に伴う外国語学習へのスムーズな移行を図る。 ・中学校においては、県学力調査（英語）の県平均正答率を上回る。 【県学力調査（中2英語）（H27）県比-4.8 → （H32）県平均】														
30年度の取組状況	○ALT配置事業 児童生徒の外国語によるコミュニケーション能力の向上をめざすとともに、豊かな国際性を身に付けさせるために、外国語指導の補助等を行う外国語指導助手（ALT）のさらなる効果的な活用を図る。 【配置状況】 全小中学校を地域ごとに7ブロックに分け、7名のALTを拠点校（全中学校）に配置し、全小学校へ派遣した。 次年度はブロックを完全に中学校区にする予定である。 【授業での活用状況】※平成29年度分調査 ・小学校5・6年生外国語活動（19校） ALT活用授業時数（974時間） ※外国語活動全授業時数の64% ・中学校英語（7校） ALT活用授業時数（4,687時間） ※英語科全授業時数の37% ○英語教育の充実 ・市教育委員会主催の学力向上対策研修会を「外国語活動・英語の指導法等」に特化し、研修を行う場を確保した。 ・指導経験や日本語による会話の差が大きい市内ALTに対して、2か月に1回の割合で会議を開き、学習指導法や喫緊の課題とその対策について情報交換を行った。 *県学力調査結果（中3英語） <table><tr><th colspan="2">3年間の推移</th><th>県平均との差</th></tr><tr><td>H28年度</td><td>60.4</td><td>-2.7</td></tr><tr><td>H29年度</td><td>40.2</td><td>-3.8</td></tr><tr><td>H30年度</td><td>49.2</td><td>-3.9</td></tr></table>			3年間の推移		県平均との差	H28年度	60.4	-2.7	H29年度	40.2	-3.8	H30年度	49.2	-3.9
3年間の推移		県平均との差													
H28年度	60.4	-2.7													
H29年度	40.2	-3.8													
H30年度	49.2	-3.9													
評価検証及び課題	・ALT配置事業については、児童生徒がネイティブの発音に慣れるとともに、工夫ある活動を通して英語によるコミュニケーション力向上に効果を上げている。また、全中学校へ配置ができたことにより、小・中学校の外国語学習指導のさらなる深まりが期待できる。 ・小学校の外国語の時数確保は見通しができた。今後、小・中での連携、ALTや英語専科の活用、教員の指導力向上などが課題となる。														
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要													
次年度以降の取組	・市教委主催「学力向上に係る研修会」を外国語教育に特化し、県教委や他市の教育機関等と連携して市全体の外国語指導力の向上を図る。 ・H30よりALTを市内7校、全ての中学校に配置できたが、ALTの指導力には大きな差がある。定期的にALT会議を行い、指導法の伝達などを行わせる。 ・研修会等を通して、小・中学校の英語（外国語）に関する交流を更に深める。														

基本方針	学校教育の充実	主要施策 8	安全・安心な学校給食の提供と食育の推進															
達成目標	・全小中学校の全学年で栄養教諭による食育授業と給食指導を実施する。 ・食育指導を充実させ、給食の残菜量を減らす。 【給食残菜量（H26） 277.1kg/月 → （H32） 50.0kg/月】 ・平成29年度までに、2つの学校給食センターへ統合する。																	
30年度の取組状況	○食育の推進 ・食育の日（毎月19日）や食育月間（6/1～6/30）を各校に周知し、学校教育活動全体を通じた食育を推進した。 ・学校給食研究会（栄養士部会）の研修（3回）、雲仙市食育ブロック推進会議を開催（2回）し、情報交換及び研究協議等を行った。																	
	○学校給食センター施設の整備 【統合にかかる整備】 <table><tr><td>① 増築工事</td><td>4,921,520円</td></tr><tr><td>② 改築工事実施設計</td><td>334,800円</td></tr><tr><td>③ 厨房機器移設</td><td>49,680円</td></tr></table> 【故障にかかる整備】 <table><tr><td>① 厨房機器取替</td><td>235,400円</td></tr><tr><td>② 熱源機取替</td><td>129,600円</td></tr><tr><td>③ 学校給食用食器等取替</td><td>4,663,440円</td></tr></table>			① 増築工事	4,921,520円	② 改築工事実施設計	334,800円	③ 厨房機器移設	49,680円	① 厨房機器取替	235,400円	② 熱源機取替	129,600円	③ 学校給食用食器等取替	4,663,440円			
	① 増築工事	4,921,520円																
	② 改築工事実施設計	334,800円																
③ 厨房機器移設	49,680円																	
① 厨房機器取替	235,400円																	
② 熱源機取替	129,600円																	
③ 学校給食用食器等取替	4,663,440円																	
○学校給食実施状況 ・2給食センターで、雲仙市内すべての小・中学校（小学校20校・中学校6校）に完全給食を実施した。 ・給食実施回数は、週5日（米飯4回、パン1回）、年間198日 ・給食実施数は、小学校2,197人、中学校1,069人、教職員420人、給食センター67人 合計3,753人 ・給食費は、小学校月額4,100円（1食単価230円） 中学校月額4,800円（1食単価270円）																		
*給食残菜量 <table><tr><td>年度</td><td>小学校</td><td>中学校</td><td>全 体</td></tr><tr><td>H28</td><td>179.3kg/月</td><td>24.3kg/月</td><td>203.6kg/月（児童生徒一人当たり59g/月）</td></tr><tr><td>H29</td><td>142.0kg/月</td><td>21.0kg/月</td><td>163.0kg/月（児童生徒一人当たり47g/月）</td></tr><tr><td>H30</td><td>126.6kg/月</td><td>11.9kg/月</td><td>138.5kg/月（児童生徒一人当たり38g/月）</td></tr></table>			年度	小学校	中学校	全 体	H28	179.3kg/月	24.3kg/月	203.6kg/月（児童生徒一人当たり59g/月）	H29	142.0kg/月	21.0kg/月	163.0kg/月（児童生徒一人当たり47g/月）	H30	126.6kg/月	11.9kg/月	138.5kg/月（児童生徒一人当たり38g/月）
年度	小学校	中学校	全 体															
H28	179.3kg/月	24.3kg/月	203.6kg/月（児童生徒一人当たり59g/月）															
H29	142.0kg/月	21.0kg/月	163.0kg/月（児童生徒一人当たり47g/月）															
H30	126.6kg/月	11.9kg/月	138.5kg/月（児童生徒一人当たり38g/月）															
評価検証及び課題	・感染性胃腸炎（ノロウイルス）対応マニュアル及び異物混入・食中毒マニュアルを再点検し、各小・中学校に配布した。 ・平成29年9月1日に、3給食センターを2給食センターに統合し、統廃合及び統廃合後の給食センターの運営をスムーズに進めることができた。 ・給食残菜量については、管理職研修会等において、市内の現状を説明するとともに、食育指導との関連を考慮しながら各学校で取り組むよう指導した。																	
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要																
次年度以降の取組	・2つの学校給食センター（南部・国見）で完全給食を実施する。 ・今後も食育指導を推進し、給食残菜量を減少させていく。 ・長崎県食物アレルギー管理システムの導入について研究していく。																	

(3) 生涯学習の推進

点検評価シート

担当課 生涯学習課

基本方針	生涯学習の推進	主要施策 1	青少年の健全育成の推進																					
達成目標	・市内各地区で「少年の主張大会」や「見守り活動」等の活動を展開し、青少年健全育成活動の大切さや「ココロねっこ運動」、「家庭の日」の周知を図る。 ・小中学校入学説明会・雲仙市青少年健全育成協議会・保育園等でメディアの安全指導に関する講演会や指導講習会を開催し、正しい利用の仕方の啓発を進める。 【(H26)4回→(H32)目標35回】																							
30年度の取組状況	○「ココロねっこ運動」「家庭の日」の啓発・推進 ・イベント、大会での周知のほか、各町『公民館だより』による広報活動を行った。 ・家庭教育7か条を策定し、教育委員・社会教育委員による懇談を行った。 ○「少年の主張大会の開催」 「少年の主張大会」を、市及び各地区において開催した。 <table><tr><td>・「市少年の主張大会」</td><td>12月 1日</td><td>千々石町公民館</td></tr><tr><td>・「国見町青少年の主張大会」</td><td>2月 3日</td><td>国見町文化会館</td></tr><tr><td>・「市少年の主張 吾妻地区大会」</td><td>10月19日</td><td>吾妻町ふるさと会館</td></tr><tr><td>・「愛野町少年の主張大会」</td><td>10月27日</td><td>愛野小体育館</td></tr><tr><td>・「千々石町少年の主張大会」</td><td>11月10日</td><td>千々石町公民館</td></tr><tr><td>・「市少年の主張 小浜大会」</td><td>10月27日</td><td>小浜公会堂</td></tr><tr><td>・「少年の主張 南串山大会」</td><td>11月11日</td><td>ハマユリックスホール</td></tr></table> ○メディア機器の安全使用に係る啓発 メディアにかかる事件事故、健康被害等を未然に防ぎ、メディアを安全快適に活用する社会を形成するため、メディア安全指導を実施した。 ・市立小・中学校の新入学児童生徒保護者説明会時のメディア安全講話の開催 23回 ・PTAなどを対象としたメディア安全講話の開催 3回 ・PTAと協働したメディア安全啓発にかかる市統一ルールリーフレットの配布 ○立入調査や白ポスト設置による有害環境への適切な対応 立入調査については、年2回、市内コンビニエンスストア・ドラッグストア、携帯ショップ等への調査を行った。 7月…13箇所（「青少年の非行・被害防止全国強調月間」「ココロねっこ運動強調月間」） 11月14箇所（「子ども・若者育成支援強調月間」）			・「市少年の主張大会」	12月 1日	千々石町公民館	・「国見町青少年の主張大会」	2月 3日	国見町文化会館	・「市少年の主張 吾妻地区大会」	10月19日	吾妻町ふるさと会館	・「愛野町少年の主張大会」	10月27日	愛野小体育館	・「千々石町少年の主張大会」	11月10日	千々石町公民館	・「市少年の主張 小浜大会」	10月27日	小浜公会堂	・「少年の主張 南串山大会」	11月11日	ハマユリックスホール
・「市少年の主張大会」	12月 1日	千々石町公民館																						
・「国見町青少年の主張大会」	2月 3日	国見町文化会館																						
・「市少年の主張 吾妻地区大会」	10月19日	吾妻町ふるさと会館																						
・「愛野町少年の主張大会」	10月27日	愛野小体育館																						
・「千々石町少年の主張大会」	11月10日	千々石町公民館																						
・「市少年の主張 小浜大会」	10月27日	小浜公会堂																						
・「少年の主張 南串山大会」	11月11日	ハマユリックスホール																						
評価検証及び課題	・「ココロねっこ運動」や「家庭の日」の啓発、推進については、広報紙での周知の他、公民館だよりに毎号掲載するなど周知に努めた。少年の主張大会は、計画どおり開催した。家庭教育7か条啓発のためクリアファイルを作成しへ全小中学校へ配布した。 ・メディア接触やメディア所持の低年齢化の現状を受け、子どもを取り巻くメディア環境への安全指導を実施した。今後は幼年期保護者も対象に広げ実施していく必要がある。 ・市青少協と市子連を統合し「雲仙市青少年・子ども育成会議」を設立した。																							
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要																						
次年度以降の取組	・「雲仙市青少年・子ども育成会議」にける、市青少協、市子連の連携強化を図り、子どもの育成に取り組み、地域の教育力を高める。 ・市PTA連合会と協力し、子どもたちのメディア機器へのかかわりに関する実態調査の結果を踏まえ、課題に即した啓発活動を行う。																							

基本方針	生涯学習の推進	主要施策 2	読書環境の充実
達成目標	・全市民に年1度は図書館（室）を利用してもらうことを目標に、平成32年までに図書館等の利用者数、貸出冊数を増やす。 【利用者数（H26） 40,347人 → 目標（H32） 47,000人】 【貸出冊数（H26） 178,791冊 → 目標（H32） 235,000冊】		
30年度の取組状況	○読書推進イベント 「読書週間」「子どもの読書の日」等の機会を捉えて、読書スタンプラリー等のイベントを企画し、読書啓発活動を推進した。 ・おはなし会（各地区、毎月） ・4月23日～5月12日 こどもの読書週間イベント（各図書館・図書室） ・5月26日 雲仙市図書館14周年イベント（雲仙市図書館） ・夏休みイベント（雲仙市図書館、小浜町文化館） ・10月27日～11月9日 読書週間イベント（各図書館・図書室） ・3月2日～3月3日 雲仙市としょかんまつり（雲仙市図書館） ○赤ちゃんとはじめての絵本応援事業 赤ちゃん相談の際、市民ボランティアを通して絵本等を手渡す「ブックスタート」活動により、市民の子育て支援や子どもの読書活動の推進を図った。 ・ブックスタート（赤ちゃんと保護者が楽しいひとときを持つきっかけ作り） - ブックスタート・バック（絵本・バッグ・おすすめ絵本リスト等）配布数282人 ・赤ちゃん向けおはなし会の開始（小浜町文化館、毎月） ・図書館職員による「おはなしのへや」 おはなしかい★ぴよぴよ *図書館（室）の利用状況 ・蔵書数 172,891冊 ・貸出冊数 221,642冊 ・利用者数 45,663人 ・図書購入数 6,628冊 ・移動図書 55箇所 ○図書館キャラクターの活用 雲仙市図書館キャラクター「ラブックン」を広報やイベント景品に積極的に活用し、親しみやすい図書館づくりに努めた。		
評価検証及び課題	・年間を通じて読書推進イベントを開催し、読書活動の推進に努めた。 ・利用者数、貸出冊数とも前年より増加した。 ・スマートフォン等の普及により活字離れが進むことが予想されることから、蔵書の充実と情報発信に努め、各種企画を通じて読書に関する理解や関心を高めていく必要がある。 ・図書館、公民館図書室が充実されてきたこともあり、移動図書の在り方について見直し検討を行う必要がある。		
自己評価	B A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要		
次年度以降の取組	・図書館と各公民館図書室の事業実施等における連携強化を進め、市民の誰もが本とふれあうことができる機会を提供する。 ・愛の夢未来センター愛野図書室開館に伴い、尚一層の読書活動の推進を図る。		

基本方針	生涯学習の推進	主要施策 3	多様な生涯学習プログラムの実施
達成目標	・市民のニーズに即した多くの講座を開催し、参加者の増加を図る。 【(H26) 162講座 → 目標 (H32) 180講座】 【(H26) 4,326人 → 目標 (H32) 4,500人】		
30年度の取組状況	○市民講座の実施 全189講座、延べ4,245人参加 各公民館年間26講座を目標に、学びの実践の場を提供する各種の講座や教室を開催した。 【対象別】 ・一般成人 88講座 ・「いきいき健康セミナー」ほか ・小中学生 50講座 ・「夏休み子ども教室 サイエンスジオ教室」ほか ・高齢者 23講座 ・「交通安全体験教室」、「介護予防教室」ほか ・幼児・親子 25講座 ・「親子リトミック」、「おはなし会」ほか ・男女共同参画 3講座 ・「男の腕まくり料理教室」ほか 【ジャンル別】 ・体験活動 27講座 ・「はじめてのバードウォッチング」ほか ・健康づくり 21講座 ・「いきいき健康セミナー」ほか ・料理 23講座 ・「ふるさとの味を伝えよう 大豆の活用料理教室」ほか ・趣味・学習 60講座 ・「大人の水彩画教室」ほか ・生活教養 15講座 ・「火災予防教室」ほか ・国際交流 17講座 ・「チェルシー先生と英語で遊ぼう！」ほか ・読書推進 10講座 ・「おはなしと、あそぼう！」ほか ・平和人権 4講座 ・「平和へのあゆみ 本の読みかたり」 ・地域交流 4講座 ・「島鉄で行く島原半島の楽しみ方教室」ほか ・子育て 2講座 ・「ニコニコおやこクッキング教室」ほか ・その他 6講座 ・「おもちゃ病院」 ○広報活動 ・広報うんぜん、市ホームページ、自治会回覧「公民館だより」、無線放送 等		
評価検証及び課題	・市民ニーズの把握と多様な講座の企画実施に努め参加者の満足度も高かった。今後、趣味、教養の学習に加え、地域の課題解決や地域づくりに繋がる講座を企画していく必要がある。 ・若者や男性の参加が少ないため、講座内容や広報の工夫に努める必要がある。		
自己評価	B A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要		
次年度以降の取組	・市民ニーズの高い講座がある一方、講座のジャンルの偏り、若者や男性の参加が少ないなどの課題があることから、「ふるさとを知る」「母子・乳幼児向け」「高齢者の生活教養」「男性向け」などのテーマを重点事業として計画的に開催する。ジャンルごとに未実施の地域がないようバランスよく開催する。		

基本方針	生涯学習の推進	主要施策 4	人権啓発活動の推進												
達成目標	・多くの人が集まる各種の大会やイベント等の開催時に、人権講演会の開催、チラシの配布等を行い、多くの人に人権について考える機会を設ける。														
30年度の取組状況	○平成30年度雲仙市人権講演会「瑞宝太鼓『夢大使』講演会」 市内小・中学校において、4講演を実施した。 (対象者：各校児童・生徒、教職員、保護者等) ＜開催校・参加者・開催日＞ <table><tr><td>第1回：岩戸小学校</td><td>34名</td><td>平成30年12月4日（午前）</td></tr><tr><td>第2回：八斗木小学校</td><td>72名</td><td>平成30年12月4日（午後）</td></tr><tr><td>第3回：南串第一小学校・南串第二小学校</td><td>139名</td><td>平成30年12月5日（午後）</td></tr><tr><td>第4回：国見中学校</td><td>300名</td><td>平成30年12月7日（午後）</td></tr></table> ＜効果検証結果等＞ 講演会では、講話、演奏、ワークショップを実施し、効果検証のため、参加児童・生徒からお礼の手紙や感じたことを書いてもらった。 小学生は、いじめを受けることの辛い思いを知り、また、障がいがあってもいきいき生活し、活躍されていて、夢を持ち努力することの大切さを感じている。中学生においては、さらに理解を深め、人権尊重の実践につなげていく気持ちを持って、具体的な取り組み目標を作成している。 本市を拠点に活躍する知的障がいを持つ和太鼓集団「瑞宝太鼓」を講師に招くことで、参加者がより身近に障がいのある方への理解を深めたり、それぞれの立場で一生懸命取り組むことの大切さを感じさせることができ、本講演会が人権啓発事業として効果があったものと認められる。 ○研修会への参加 長崎県主催人権教育研修会、県社会教育研修大会の人権教育部会等へ職員、嘱託職員の参加を行い研修機会の充実に努めた。 ○図書館、図書室に人権コーナーを設置するとともに、市民講座等において人権に関する3分間スピーチ等に取り組んだ。			第1回：岩戸小学校	34名	平成30年12月4日（午前）	第2回：八斗木小学校	72名	平成30年12月4日（午後）	第3回：南串第一小学校・南串第二小学校	139名	平成30年12月5日（午後）	第4回：国見中学校	300名	平成30年12月7日（午後）
第1回：岩戸小学校	34名	平成30年12月4日（午前）													
第2回：八斗木小学校	72名	平成30年12月4日（午後）													
第3回：南串第一小学校・南串第二小学校	139名	平成30年12月5日（午後）													
第4回：国見中学校	300名	平成30年12月7日（午後）													
評価検証及び課題	・講演会では、参加児童・生徒からお礼の手紙等が多く寄せられ、その内容から障がいを持たれた方への理解が深まっていることが確認できた。 ・市民が関心を持ちやすい内容やテーマを考慮し、人権啓発に取り組む必要がある。														
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要													
次年度以降の取組	・引き続き、多くの市民が関心を持てるような人権映画上映会やテーマを絞った講演会を開催することにより、多くの市民に人権意識の周知を図り、人権教育を推進する。														

(4) 文化芸術の振興と歴史の継承

点検評価シート

担当課 生涯学習課

基本方針	文化芸術の振興と歴史の継承	主要施策 1	文化芸術活動の推進																																				
達成目標	- 子どもを対象とした文化芸術体験事業及びアウトリーチ事業を開催する。 - 雲仙市文化連盟を構成する各町文化協会及び雲仙市文化会館自主文化事業振興会を支援し、市民ニーズに応じた市民主体の文化活動の向上を図る。 - 市内在住の文化芸術における、専門家の発掘及びネットワーク形成を図る。																																						
30年度の取組状況	○ 子どもを対象とした文化芸術体験事業（文化庁補助事業） 文化芸術による子どもの育成事業（巡回公演事業）を開催した。 <table><tr><td>・大塚小学校</td><td>5月29日(火) ワークショップ</td><td>参加者168人</td></tr><tr><td></td><td>7月 2日(月) 能・船弁慶、狂言・柿山伏</td><td>参加者175人</td></tr><tr><td>・鶴田小学校</td><td>9月20日(木) ワークショップ</td><td>参加者 24人</td></tr><tr><td></td><td>10月24日(水) 人形劇「あらしのよるに」</td><td>参加者146人</td></tr><tr><td>・千々石第一小学校</td><td>10月10日(水) ワークショップ</td><td>参加者230人</td></tr><tr><td></td><td>11月 1日(木) 日本奇術協会「夢と希望の創造空間」</td><td>参加者308人</td></tr></table> ○市民主体の文化活動 市民の活発な芸術文化活動を推進するため、雲仙市文化連盟が中心となり市民音楽祭や市美術展覧会等を開催した。 ・第12回雲仙市民音楽祭 11月24日(土) (国見町文化会館) 250名 ・第13回雲仙市民美術展覧会 2月8日(金)～11(祝・月) (国見町文化会館) 520名 ○雲仙市文化会館自主文化事業振興会主催事業 市民のニーズにあった文化芸術鑑賞機会を充実させるため、雲仙市文化会館自主文化事業振興会による自主文化事業を開催した。 <table><tr><td>・妖怪影絵劇ゲゲゲの鬼太郎</td><td>6月 2日(土) (国見町文化会館)</td><td>来場者403人</td></tr><tr><td>・ドリーミングファミリーコンサート</td><td>7月28日(土) (ハマユリックスホール)</td><td>来場者496人</td></tr><tr><td>・プリコットミニコンサート</td><td>8月25日(土) (吾妻町ふるさと会館)</td><td>来場者155人</td></tr><tr><td>・ビッグバンドジャズフェスティバル2018</td><td>9月22日(土) (ハマユリックスホール)</td><td>来場者401人</td></tr><tr><td>・まほろばジャズによる</td><td>10月26日(金) (国見町文化会館)</td><td>来場者330人</td></tr><tr><td>・わが青春の歌コンサート</td><td>2月22日(金) (国見町文化会館)</td><td>来場者358人</td></tr></table>			・大塚小学校	5月29日(火) ワークショップ	参加者168人		7月 2日(月) 能・船弁慶、狂言・柿山伏	参加者175人	・鶴田小学校	9月20日(木) ワークショップ	参加者 24人		10月24日(水) 人形劇「あらしのよるに」	参加者146人	・千々石第一小学校	10月10日(水) ワークショップ	参加者230人		11月 1日(木) 日本奇術協会「夢と希望の創造空間」	参加者308人	・妖怪影絵劇ゲゲゲの鬼太郎	6月 2日(土) (国見町文化会館)	来場者403人	・ドリーミングファミリーコンサート	7月28日(土) (ハマユリックスホール)	来場者496人	・プリコットミニコンサート	8月25日(土) (吾妻町ふるさと会館)	来場者155人	・ビッグバンドジャズフェスティバル2018	9月22日(土) (ハマユリックスホール)	来場者401人	・まほろばジャズによる	10月26日(金) (国見町文化会館)	来場者330人	・わが青春の歌コンサート	2月22日(金) (国見町文化会館)	来場者358人
	・大塚小学校	5月29日(火) ワークショップ	参加者168人																																				
	7月 2日(月) 能・船弁慶、狂言・柿山伏	参加者175人																																					
・鶴田小学校	9月20日(木) ワークショップ	参加者 24人																																					
	10月24日(水) 人形劇「あらしのよるに」	参加者146人																																					
・千々石第一小学校	10月10日(水) ワークショップ	参加者230人																																					
	11月 1日(木) 日本奇術協会「夢と希望の創造空間」	参加者308人																																					
・妖怪影絵劇ゲゲゲの鬼太郎	6月 2日(土) (国見町文化会館)	来場者403人																																					
・ドリーミングファミリーコンサート	7月28日(土) (ハマユリックスホール)	来場者496人																																					
・プリコットミニコンサート	8月25日(土) (吾妻町ふるさと会館)	来場者155人																																					
・ビッグバンドジャズフェスティバル2018	9月22日(土) (ハマユリックスホール)	来場者401人																																					
・まほろばジャズによる	10月26日(金) (国見町文化会館)	来場者330人																																					
・わが青春の歌コンサート	2月22日(金) (国見町文化会館)	来場者358人																																					
評価検証及び課題	・「文化芸術による子どもの育成事業」を活用し、子どもたちに質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供した。 ・自主文化事業は、地域で活躍する子ども達や文化団体がステージに立つなど、地元の人材を活用した公演を行うことができ、地域全体の文化芸術振興への関心を高め、出演者、観客ともに満足度の高い公演につながった。 ・雲仙市文化連盟の組織強化や会員相互の交流活性化を引き続き図っていく必要がある。地域課題解決につながる文化事業や組織の在り方について検討していきたい。																																						
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要																																					
次年度以降の取組	・文化芸術による子どもの育成事業の開催（市内1校程度）を継続して実施する。 ・秋頃に開館する「愛の夢未来センター」を活用した自主文化事業をはじめ、雲仙市文化連盟による市民音楽祭や市美術展覧会を開催する。 ・雲仙市文化連盟、雲仙市文化会館自主文化事業振興会の、自立した組織の在り方を検討する。																																						

基本方針	文化芸術の振興と歴史の継承	主要施策 2	伝統的建造物群保存地区事業の推進
達成目標	・修理修景事業を推進し、伝統的まちなみ景観の整備を図る。 ・緋寒桜の郷まつり等、市民と連携したイベントを開催し、まちなみを活用した地域活性化を推進する。 ・防災計画に基づく消火設備及び自主防災組織の充実を図る。		
30年度の取組状況	○修理修景事業の推進 まちなみ景観の向上を図る為の修景事業及び次年度実施の為の協議、設計を行った。 ・修景事業(市直営、神代小路生垣修景外溝工事)1件 (3,974千円) ・修景事業(民間補助)1件 (200千円) ・次年度実施の為の協議、測量設計 民間事業 2件、直営事業 2件 ・景観復原に係る基本設計 1件 (261千円) ○生垣剪定の実施 景観の重要構成要素である生垣の剪定奨励に努めた。 ・実施件数38件 (403千円) ○市民と連携したイベント開催 市民が結成する緋寒桜の郷まつり実行委員会に参画し、演奏会、物販、絵画展、囲碁大会等の事業を実施した。 ○防災に強いまちづくり ・防災施設整備(市直営、神代小路易操作性消火栓設置工事)1件 (1,587千円) ・自主防災組織による避難訓練の実施 1回 ○空き家対策 平成29年度に茅葺屋根の残る旧永松家住宅を寄付受領した。今後の活用については、地元自治会等に協議中であるとともに、清掃等の軽易な管理を地元有志の会に依頼。		
評価検証及び課題	・修理修景事業について、広報誌発行による啓発や相談を通じて実施を働きかけた。 ・保存地区は木造の建造物群であり、火災による消失を防ぐ必要があることから防災施設整備の実施や、自主防災組織の活動充実に取り組んでいく必要がある。 ・地域住民の高齢化とともに、空き家の増加が懸念されることから、住民有志による空き家対策の活動を支援し対策を講じる必要がある。		
自己評価	B A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要		
次年度以降の取組	・市民との小まめな相談を行い、修理修景を通して文化財の保存と景観の維持を図る。 ・市民団体と共催して緋寒桜の郷まつりを開催し、文化財の公開と地域活性化に努める。 ・保存会と連携し空き家所有者との相談を行い、空き家の解消を図る。		

基本方針	文化芸術の振興と歴史の継承	主要施策 3	重要文化財 旧鍋島家住宅の公開活用
達成目標	・ 保存活用計画に基づいた管理運営と施設環境の整備を行い、重要文化財の保存を図る。 ・ 市内の多様なイベントや企画との連携により、施設の有効活用と集客を推進し文化財の公開活用を推進する。		
30年度の取組状況	○入場者数 施設の公開 ・ 入場者数 7,637名 ※平成29年度 7,948名 ○企画事業の実施 収蔵品の展示や、庭園での演奏会、茶会を開催した。 緋寒桜の郷まつりイベントと連携し、集客に努めた。 緋寒桜開花時期にはガイドを配置し、鍋島邸や伝建地区の説明を行った。 ○環境維持 季節に合わせた樹木の剪定管理を行い、環境の維持に努めた。 ・ 剪定実施回数 17回、その他消毒、樹勢回復措置 (1,816千円) ○収蔵品の調査 収蔵品の保存と活用の為、専門家の指導を仰ぎ、資料整理を行った。 ・ 実施回数 7回 (277千円) ○収蔵品保管庫の整備 鍋島家からの寄贈品を保管する保管庫の整備を行った。 ・ 重文事業(市直営、旧鍋島家住宅収蔵品保管庫整備工事)1件 (19,810千円)		
評価検証及び課題	・ 建物、庭園の適切な管理に努め、文化財の保存と公開活用に努めた。主屋の瓦等が未修理であり、国県と相談しながら改修時期を検討する必要がある。 ・ 旧鍋島家からの寄贈資料について調査、整理を行い、保管庫を整備した。 ・ 鍋島邸の入場者数の約8割が緋寒桜の開花時期に集中しており、気候の変化により開花が遅れると観光客が減少するなど自然の影響が大きい。		
自己評価	B A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要		
次年度以降の取組	・ 将来的な修理に備え事前調査を行い、国県との相談を行う。 ・ 庭園等環境維持に努める。天然記念物の緋寒桜は県樹木医会に委託し通年管理を行う。 ・ 鍋島邸ガイドの充実のため、多言語化を含めたガイドシステムの導入を検討する。		

基本方針	文化芸術の振興と歴史の継承	主要施策 4	伝統文化の継承
達成目標	・自治会と連携した郷土芸能の実施状況と課題の把握を行い、郷土芸能を絶やすことのないよう支援を行う。		
30年度の取組状況	○伝統文化の継承 市内のハタ保存会の活動支援を実施し、ハタづくりの指導や、ハタあげ大会を実施した。 愛のまち剣舞箏保存会（50千円）、吾妻町はた保存会（41千円） ○子ども対象の伝統文化体験 地域子ども教室として、公民館などで各種の子ども対象教室を実施しており、茶道、民謡、囲碁、将棋などの伝統文化に親しむ機会を設けた。 154回（8教室） ○郷土芸能団体の育成 - 郷土芸能は、各地域の歴史や風土の中で、人々の生活の中で育まれてきたもので、豊作や豊漁、厄払いなど地域の生業や文化に根ざしたものが多く、今般の職種や勤務体系が複雑化した社会においては継承が難しくなっていると思われる。 - 郷土芸能の継承は困難になっていくと予想されることから、映像等に資料として保存していくことを検討する必要があることから、千々石温泉神社秋季例大祭（野田名の奉納浮流）について、映像の記録保存を行った。		
評価検証及び課題	- ハタ保存会の活動支援を行い、ハタ作り体験や、ハタあげ大会を実施していただいたが、会員の高齢化、後継者不足が課題となりつつある。 - 郷土芸能団体は、自治会等の組織で継承が位置づけられるなど保存体制が確立しているものの以外は、継承が困難になりつつある。		
自己評価	C	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要	
次年度以降の取組	- 市内ハタ保存会の活動支援を行い、伝統文化の継承と、ハタあげにふれあう機会をつくる。 - 放課後子ども教室等において、地域指導者の協力を得て伝統文化に親しむ機会を設ける。 - 保存継承が困難な郷土芸能については記録保存に努める。		

基本方針	文化芸術の振興と歴史の継承	主要施策 5	文化財保護啓発の推進
達成目標	・市指定文化財の追加指定を行う。【(H26) 47件 → (H32) 目標55件】 ・歴史講座等を定期的に開催する。【(H26) 5件 → (H32) 目標10件】		
30年度の取組状況	○文化財の保護活動 指定文化財などの巡視、清掃、補修、生息調査を行い保護に努めた。 ・清掃活動 2箇所（鬼の岩屋、五万長者屋敷跡） ・オキチモズク生息確認(国見) 3回 ・千々石ミゲル推定墓拓本表装(千々石) ・文化財看板、標柱の修理 2件（桑田遺跡ほか） 特別名勝温泉岳、伝統的建造物群保存地区、埋蔵文化財等文化財の現状変更行為に対する許可申請手続きの啓発を行った。 市広報誌 2回 チラシ等 2回 ホームページ掲載 随時 ○明治150年事業 文化庁が行う「明治150年」の取り組みに合わせて、市内の偉人の紹介を広報及びホームページに掲載した。 ・紹介した件数12件（人数15名） ・明治期に外交官となった第16代神代鍋島家当主、鍋島桂次郎に関する講演会を開催した。 ○千々石ミゲル推定墓 29年度に諫早市多良見町で行われた、千々石ミゲル推定墓の発掘調査成果をもとに、県民大学講座として3回、歴史講座を行った。		
評価検証及び課題	・文化財の指定については、旧鍋島家関連資料の調査を実施し、文化財指定への準備を行った。 ・歴史講座については、キリスト教関連遺産の世界遺産登録により関心が高まっている。雲仙市におけるキリスト教の布教の歴史について講演会を開催した。今後も、市内の歴史文化についての学習機会を提供するとともに、千々石ミゲル関連の歴史学習についても継続していく必要がある。		
自己評価	C A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要		
次年度以降の取組	・市内文化財関連の講演会を開催するとともに、拓本の表装を行ったミゲル推定墓の公開活用を図る。 ・指定文化財の定期的な巡視と観察を行い、適切な保護活動に努める。		

基本方針	文化芸術の振興と歴史の継承	主要施策 6	埋蔵文化財の保存活用
達成目標	・農業基盤整備事業に伴う発掘調査事業を完遂する。 ・雲仙市歴史資料館における発掘調査成果の公開・活用を図る。 【国見展示館入館者数 (H26) 3,099名 → (H32) 目標 3,500名】		
30年度の取組状況	○吾妻地区基盤整備事業に伴う永中道遺跡・浚松遺跡・源次広野遺跡発掘調査 基盤整備事業に伴い発掘調査を行った遺跡の報告書を作成した。(8,915千円) ・縄文時代早期から中世までの出土品や遺構が検出され、長期間にわたって集落跡が営まれていた痕跡が発見された。縄文時代早期の連結土抗(燻製作成遺構)や中世の道路遺構など当時の暮らしがわかる調査となった。縄文土器の中には西彼杵半島の「滑石(かっせき)」と呼ばれる石の粉を混ぜたものなど、特徴的なものも見られた。 ○愛津原地区基盤整備事業に伴う火箱遺跡・鼻穿石遺跡発掘調査 基盤整備事業に伴う工事により遺跡の消滅する部分の発掘調査を行った。(49,183千円) ・弥生時代後半の集落跡が発見された。堅穴住居跡や環濠(集落を守る堀)、墓と考えられる遺構からは勾玉やガラス玉など希少な発見が見られた。 ○市内遺跡発掘調査 市内の各種開発事業に伴い遺跡の内容確認(試掘)調査を実施した。(12件) ・住宅やアパート建設、基盤整備事業の施工前に、事前の確認調査を実施し、調査の結果に合わせて、文化財の保護を講じるよう指導を行った。 ○埋蔵文化財啓発冊子作成 ・雲仙市のキリシタン関連文化財を紹介する冊子を作成し、小中学校・図書館等に配布した。(4,000冊作成) ○国見展示館企画展等 ・企画展を開催した。(市内発掘調査展：小路遺跡の近代遺物) ・国見展示館入館者数 H30実績 1,244名 (H29実績1,078名) ※H27年度に、隣接の「まちなみ交流館」の整備公開に伴い、国見展示館校舎で行っていた緋寒桜の郷まつり会場が移ったためその分の利用者が減少している。 ・夏休み講座 まが玉づくり・ジオパーク 4地域 5回 82名参加 ・出前講座 2小中学校 2回 39名		
評価検証及び課題	・吾妻地区基盤整備事業に伴う調査は、30年度の報告書作成をもって終了した。 ・愛津原地区基盤整備事業に伴う発掘調査が開始となり、令和3年度まで調査及び報告書作成を行う。それ以外にも今後、桃山田地区や南串山地区、宮田地区についても基盤整備事業に伴う発掘調査が続く見通しであり、現地調査の遂行と終了した分の調査報告書作成作業の両立を図っていかなければならない。 ・発掘調査後の啓発冊子は、小学校での歴史教育で活用されている。 ・国見展示館等市内資料館・展示館において、発掘調査成果の企画展等計画し、今後も市内文化財の周知を図っていく必要がある。		
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要	
次年度以降の取組	・愛津原地区の発掘調査及び報告書の作成を行い、調査成果の活用を図る。 ・国見展示館等での企画展や講座等を通して、調査成果の周知と歴史学習に寄与する。 ・文化財保護啓発冊子の作成を行い、文化財保護に取り組む。		

(5) スポーツの振興

点検評価シート

担当課 スポーツ振興課

基本方針	スポーツの振興	主要施策 1	運動・スポーツ活動の日常化の推進
達成目標	・スポーツ人口増加のための教室・大会を毎年実施し、成人の週一回以上のスポーツ実施率を高める。【※長崎県目標 (H32) 65%】 ・スポーツ施設の利用者数の増大を目指す。 【年間利用者数 (H28・総合計画目標) 382,000人→(H32) 385,000人】		
30年度の取組状況	○ 軽スポーツ団体の支援 雲仙市レクリエーション協会及びがまだすスポーツクラブの活動を指導・支援を行い、組織の拡充・活動の充実を図った。 【雲仙市レクリエーション協会】 補助金：400千円 ・5月18日 雲仙市レクリエーション協会総会 ・2月2日 第10回雲仙市民ウォーキング大会 会場：小浜町 参加者：130名 ・10月8日 第2回雲仙市レクリエーション&スポーツフェスタ 9種目実施 参加者：139名 ・11月4日 県民スポレク祭2018「雲仙アヅマクロス大会」 参加者：73名 (30チーム) ※構成団体数：5団体 構成人数：218人 【がまだすスポーツクラブ】 ・スポーツ教室 年間10教室開催 総計185名 ・6月27日 ソフトバレー教室交流大会 参加チーム18チーム ・11月23日 スポーツフェスティバル開催 375名参加 ○ スポーツ教室等の実施 市民に対し、運動機会の提供・紹介のための軽スポーツ等の教室を実施した。 ・6月30日 水泳教室の開催 (初心者6/30～8/26 42名、中級・上級7/1～8/27 39名) ・9月3日 陸上教室の開催 (9/2～9/23 小学生1年～6年生 参加者：45名) ○ ラジオ体操の推進 いつでも・どこでも・一人でも、気軽にできる「ラジオ体操」の推進を実施した。 ・7月21日 市民ラジオ体操会 7町7会場で実施 参加延べ人数 684名 ・スポーツ推進委員によるラジオ体操指導派遣 3回実施 ・7月31日 夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会 会場：愛野町 参加者：約800名 ※ スポーツ施設年間利用者数 H30 382,241人		
評価検証及び課題	・軽スポーツ団体の支援については、計画どおり進捗している。雲仙市レクリエーション&スポーツフェスタや市民ウォーキング大会への参加者も多く、日常的にスポーツに取り組む人が増加している。 ・スポーツ教室については、水泳教室や陸上教室を開催し、クラブ活動をしていない児童も参加したことで運動をする機会の提供ができた。 ・ラジオ体操の推進については、市民ラジオ体操会等の開催やスポーツ推進委員の指導派遣で推進を図った。		
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要	
次年度以降の取組	・一般市民が多く参加できる軽スポーツ大会等の取組みを行う。 ・ラジオ体操の推進については、一般市民を対象にイベント等の開催を実施するとともに各種大会や企業などでラジオ体操を取り入れるよう推進を行う。		

基本方針	スポーツの振興	主要施策 2	スポーツの競技力向上												
達成目標	・競技力向上を目指す雲仙市体育協会の活動を支援する。 ・優秀選手の育成のための奨励事業を行う。														
30年度の取組状況	○ 体育協会の運営支援 市民スポーツ大会をはじめとする市民の各種競技会の開催、ジュニアスポーツの競技力向上や競技人口の拡大のための講習会や教室を行う雲仙市体育協会の活動支援を行った。 ・雲仙市体育協会補助金（競技団体活動助成金）の執行状況把握と指導を行う。 体育協会加盟団体 21競技団体（1,678人） 補助金 18,462千円 各種スポーツ大会等の開催 市内全域の大会 51大会 各地区単位の大会 23大会 教室開催 47教室 ・H30.7～9 市民スポーツ大会開催支援 補助金 1,593千円 総合開会式：平成30年7月27日（金） 大会期間：平成30年7月29日（日）～9月4日（火） 実施競技：20競技61種目 参加者総数：2,016人 ・H30.11 県民体育大会へ派遣するため、市体育協会を通して出場に係る経費の一部を助成する。 19競技46種目 492名参加 ○ 補助金等による経済的支援 優秀な成績で上位大会へ出場する選手や団体に対し経費の一部を助成し、負担の軽減と向上意識の高揚を図った。 ・市の代表として長崎県大会等を勝ち進み、九州大会、西日本大会及び全国大会に出場した者に対し、激励費を交付した。 件数：97件（延べ151人） 2,195千円 <table><tr><td>交付基準額</td><td>①九州大会及び西日本大会</td><td>10,000円</td><td>49件</td></tr><tr><td></td><td>②全国大会</td><td>20,000円</td><td>47件</td></tr><tr><td></td><td>③国際大会</td><td>30,000円</td><td>1件</td></tr></table>			交付基準額	①九州大会及び西日本大会	10,000円	49件		②全国大会	20,000円	47件		③国際大会	30,000円	1件
交付基準額	①九州大会及び西日本大会	10,000円	49件												
	②全国大会	20,000円	47件												
	③国際大会	30,000円	1件												
評価検証及び課題	・体育協会の運営支援については、計画どおり進捗している。しかし、各競技団体の構成員が減少傾向にあるので、各競技ごとの競技力向上を図るとともに、支部活動の支援を行う必要がある。 ・補助金等による経済的支援については、計画どおり進捗している。体育協会加盟団体と各クラブ・部活動が連携し各種大会・教室を実施したことにより、上位大会へ出場する個人・団体が増えた。														
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要													
次年度以降の取組	・体育協会の運営支援を行うとともに、各競技団体の構成員数が減少傾向にあるので、各競技団体が行う大会及び教室等の活動を支援する。 ・競技力の向上、優秀選手を育成するために、体育協会、小学生クラブ活動振興会、部活動振興会が連携した協力体制のもとに奨励事業を行う。														

基本方針	スポーツの振興	主要施策 3	ジュニアスポーツの推進
達成目標	- 子どもたちの健全なスポーツ活動の普及のため、育成組織の指導・支援と適切な活動環境の整備に努める。 - 小学生クラブ活動振興会で活動する子どもたちの割合を増やす。 【市内児童（5,6年生）の割合 (H26) 50%→(H32) 55%】		
30年度の取組状況	○ 振興会等団体に対する活動・運営支援 少年期における健康な身体づくりと、将来のスポーツ活動への意欲を育むため、適切な競技指導とクラブ運営を行う小学生クラブ活動振興会及び部活動振興会に対し、運営のための経費の一部を助成して、その活動を支援した。 - 市内の小学生クラブの活動を支援するため、活動費の補助を行った。 団体数 : 52クラブ 構成部員数 : 749人 補助金 2,387千円 - 中学校部活動振興会（担当課：学校教育課） 団体数 : 7部 構成部員数 : 934人 補助金 4,000千円 ○ 指導者・保護者等の研修会の実施 ジュニアスポーツの指導者・保護者等を対象に、指導のためのスポーツ医科学やメンタルトレーニング等の研修会を実施した。また毎日の練習時間や休日の設定などを徹底し、指導者・保護者等とともに、子どもたちの適切な活動環境の整備に努めた。 10月12日 出前健康づくり教室（主催：県教育委員会） 会場：吾妻体育館 参加者数：52名 10月17日 スポーツ医・科学基礎講座 会場：瑞穂体育館 参加者数：216名 10月24日 スポーツ医・科学基礎講座 会場：吾妻体育館 参加者数：341名 10月31日 スポーツ医・科学基礎講座 会場：小浜体育館 参加者数：231名 ○ 大会出場等の補助 優秀な成績で上位大会へ出場する選手や団体に対し、経費の一部を助成し、負担の軽減と向上意欲の高揚を図った。 - 市内在住の児童及び生徒を対象として、長崎県大会以上の大会に出場した個人及び団体に対し、旅費及び宿泊費の50%以内で補助を行った。 件数 : 70件 (534人) 補助金 3,746千円 全国大会：21件、68人 九州大会：27件、134人 県大会：22件、332人 ※ 小学生クラブ活動振興会で活動する市内児童（5・6年生）の割合 H30 50.6%		
評価検証及び課題	小学生クラブ活動振興会で活動する市内児童（5・6年生）の割合が昨年度より0.3ポイント減。また、大会出場補助金を行った件数も昨年度より11件減となった。各クラブ等の毎日の練習時間は守られてきているものの、休養日の設定がいまだ徹底されていないのが課題である。		
自己評価	C A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要		
次年度以降の取組	- 指導者・保護者等を対象に研修会を実施し、子どもたちの適切な活動環境の整備に努めるとともに、各クラブの休養日の設定を徹底させる。（指導者の研修会への参加） - 小中学生スポーツ大会出場補助金申請の簡素化に向けて申請手続きの見直しを行う。		

基本方針	スポーツの振興	主要施策 4	快適な活動の場の提供																																		
達成目標	- スポーツ施設の適正な維持管理に努めるとともに、利用しやすい環境整備に努め、スポーツ施設の利用者数の増大を目指す。 【年間利用者数 (H28・総合計画目標) 382,000人→(H32) 385,000人】																																				
30年度の取組状況	○ 社会体育施設（設備・備品）の適正な管理運営 市内のスポーツ施設が快適に利用できるよう、適切な維持・管理を実施した。 【社会体育施設整備事業】 事業費 29,612千円（委託料・工事請負費） <table border="0"> <tr> <td>国見体育館内壁改修工事</td><td>9,003千円</td></tr> <tr> <td>瑞穂体育館玄関屋根防水工事</td><td>7,787千円</td></tr> <tr> <td>瑞穂体育館耐震改修工事実施設計業務</td><td>2,160千円</td></tr> <tr> <td>愛野運動公園グラウンドシュルター設置工事</td><td>1,995千円</td></tr> <tr> <td>みずほすこやかランド照明柱配管改修工事</td><td>1,628千円</td></tr> <tr> <td>吾妻体育館高圧気中開閉器・発電機用蓄電池取替工事</td><td>1,058千円</td></tr> <tr> <td>ほか 34件の修繕工事等を実施</td><td>5,981千円</td></tr> </table> ○ 適切な利用のための予約制度の確立 各種スポーツ活動が円滑に実施されるよう、施設の利用調整や早期予約制度の改良を進めた。 H30社会体育施設及び学校開放施設の利用状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>施設数</th><th>利用件数</th><th>早期予約申請</th><th>年間利用者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会体育施設</td><td>19</td><td>17,085</td><td>607</td><td>287,722</td></tr> <tr> <td>学校開放施設</td><td>27</td><td>3,408</td><td>161</td><td>94,739</td></tr> <tr> <td>計</td><td>46</td><td>20,493</td><td>768</td><td>382,461</td></tr> </tbody> </table> ○ 指定管理者制度による民間活力の導入 施設をより快適に活用できるよう、また、より高度なサービスが提供できるよう、施設の運営に民間企業のノウハウ等を導入する指定管理者による施設運営を進めた。 【国見総合運動公園（遊学の里くにみ）】 指定管理者：特定非営利活動法人V・ファーレン長崎スポーツコミュニティ 指定管理契約期間：平成27年4月1日～平成31年3月31日 指定管理料：29,000千円 年間施設利用者数：76,761人（入浴者36,438人、部屋使用319人、宿泊者3,659人、グラウンド他36,345人） ※ スポーツ施設年間利用者数 H30 382,241人			国見体育館内壁改修工事	9,003千円	瑞穂体育館玄関屋根防水工事	7,787千円	瑞穂体育館耐震改修工事実施設計業務	2,160千円	愛野運動公園グラウンドシュルター設置工事	1,995千円	みずほすこやかランド照明柱配管改修工事	1,628千円	吾妻体育館高圧気中開閉器・発電機用蓄電池取替工事	1,058千円	ほか 34件の修繕工事等を実施	5,981千円		施設数	利用件数	早期予約申請	年間利用者数	社会体育施設	19	17,085	607	287,722	学校開放施設	27	3,408	161	94,739	計	46	20,493	768	382,461
国見体育館内壁改修工事	9,003千円																																				
瑞穂体育館玄関屋根防水工事	7,787千円																																				
瑞穂体育館耐震改修工事実施設計業務	2,160千円																																				
愛野運動公園グラウンドシュルター設置工事	1,995千円																																				
みずほすこやかランド照明柱配管改修工事	1,628千円																																				
吾妻体育館高圧気中開閉器・発電機用蓄電池取替工事	1,058千円																																				
ほか 34件の修繕工事等を実施	5,981千円																																				
	施設数	利用件数	早期予約申請	年間利用者数																																	
社会体育施設	19	17,085	607	287,722																																	
学校開放施設	27	3,408	161	94,739																																	
計	46	20,493	768	382,461																																	
評価検証及び課題	- 小浜体育館整備事業については、計画どおり設計業務を実施した。他社会体育施設については、整備計画に基づき修繕等を適正に行った。 - 瑞穂体育館は、耐震診断の結果、耐震性がないと判断され、耐震補強が不可欠な状況にあることから、改修工事等について検討する必要がある。 - 国見総合運動公園（遊学の里くにみ）については、民間企業のノウハウ等の導入により、快適に施設利用ができるよう施設運営を行った。																																				
自己評価	B	A：計画を上回って進捗 B：計画どおり進捗 C：一部課題はあるが概ね計画どおり進捗 D：計画が全体的に遅れ E：計画に大幅な遅れ又は見直しが必要																																			
次年度以降の取組	小浜体育館については、引き続き設計業務を行い、本体工事の入札の準備を行うとともに、他の社会体育施設の今後のあり方について、検討を進める。																																				

7. 学識経験者の所見

(1) 点検・評価に対する総評

平成28年度から5か年の計画期間をもって策定された「雲仙市教育振興基本計画」は、いよいよ次年度をもって計画終了となる。平成30年度主要施策(Plan)の進捗状況(Do)の点検及び評価(Check)、それをもとにした今年度の取組(Action)は、総括となる最終年度に向けて重要な意味を持つものと考ええる。

まずもって評価されるべきことは、雲仙市教育方針に掲げてある「人づくり・ふるさとづくり」のもと、本計画におけるすべての事業推進の中心には、常に児童生徒や市民の存在があるということである。たとえば、定例会や総合教育会議においては、教育行政上の諸問題等を市当局や関係者と共有し、緊急を要する事業に対しては、子どもや市民の安全・安心を第一にした早急な対応・措置が講じられている。

併せて、25項目の主要施策の達成に向けて、粛々と事業推進が図られ、概ね計画どおりの進捗状況にあることが今回の点検・評価からも読み取れる。定例会議の透明化を図るため、ホームページ上に議事録の公表が始まったことも、市民からの理解と信頼を得るものである。こうした教育行政の遂行に真摯に取り組む教育委員会及び担当課の姿勢は、大きな評価に値するものである。

先述したように、今年度の取組(Action)は重要な意味を持っている。このことを踏まえ、短期的・長期的な取組にかかわらず、年度途中の節目における進捗状況の丁寧な点検を実施し、改善に生かしてほしいと願っている。

(2) 「施策の方針」に係る個別ごとの評価

①教育環境の整備について

限られた予算を効率的に執行しながらの計画的な事業推進、ブロック塀の緊急点検及び撤去等の緊急を要する整備事業に対しては、早急な対応がなされていることが見て取れる。こうした取組の根底には、児童生徒にとって安全・安心な教育環境の整備を第一とする市教育行政の在り方が高評価につながるものである。小中学校や児童生徒の保護者、一般市民からの教育行政に対する信頼も一層厚くなるものと考ええる。

現在、小中学校においては、空調設備の整備が進んでいる。設備材料不足等の問題も発生していると聞くが、一層快適な学習環境づくりに向けての取組がなされている。反面、防災機能強化の一環として進められている校舎・体育館の外壁改修工事等、耐震化率が平成30年度末現在で37%となっている。令和2年度末に50%の耐震化率を達成目標としているが、老朽化した学校施設が多いため、改修に係る予算確保が大きな課題となっていることから、目標のクリアが容易ではない状況にあることが想像できる。しかしながら、数値目標は意識しつつも、児童生徒にとって安全・安心な教育環境の整備を第一にした事業を粛々と推進し

てもらふことが高評価につながるものとする。

また、社会教育施設等の整備及び情報教育環境の整備については、概ね計画どおりの進捗状況であることは高く評価したい。とりわけ、学校パソコン機器の整備が、5か年の更新計画を1年前倒しして完了できたことは、電子黒板の整備率100%の目標に向けて、あるいはデジタル教科書の導入に向けて好影響を与えるものとする。今後、こうしたICT環境の整備が進む中、いわゆる宝の持ち腐れにならぬよう学校現場での有効な活用を期待したい。

②学校教育の充実について

確かな学力の向上に向けて、学力向上対策研修会や研究指定事業、学力調査事業等、継続しての事業が推進され、成果につながっていることがうかがえる。

たとえば、学力調査結果では、全国及び県学力調査において、小学校は国語・算数ともに、全国・県平均をほぼ上回っている。中学校も全国学力・学習状況調査においてA問題が全国平均に近づきつつある。しかしながら、全国のB問題かつ県の英語においては、それぞれの平均を大きく下回る結果となっている。各学校の努力で教職員の学力向上への意識改革が図られている中、外国語教育推進に特化した研修の実施は、課題解決に向けて意義深い取組といえる。継続しての実施と成果を期待したい。

豊かな心を育む教育の推進については、「特別の教科 道徳」として教科化された道徳の授業改善が、各学校でいかに展開されていくかがひとつのカギになると考えている。各学校において「特別の教科」として設定された意義を十分理解し、何より目の前にいる児童生徒の心と向き合いながらの授業改善が展開されるよう研修の一層の充実を図っていただきたい。関連して、小学校間交流学习は、他校児童との交流を通して、体験的に心を磨く場でもある。計画の立案や連絡・調整等で、実施校が繁雑になることは十分承知しているが、豊かな心を育む貴重な機会と捉え、継続的な取組をお願いしたい。

また、「いじめを許さない学校」づくりの一環として、各学校でのいじめ防止対策委員会の開催、研修会及びアンケートの実施等の成果がいじめの認知件数に表れている。いじめ見逃しゼロ及び早期対応が学校現場に浸透し、ひいては「いじめ問題でゼロの学校」づくりを目指していただきたい。

本市における児童生徒の体力の状況が概ね良好であることは高く評価できる。課題とされる「柔軟性の向上」のために、「ジャックナイフストレッチ」は市内小中学校の共通実践として位置づけ、一層の充実が図られることを望みたい。併せて、雲仙市立学校の部活動等に係る活動方針については、関係部活動指導者等の十分な理解を得ながら、その基準が周知徹底されるよう配慮をお願いしたい。

やや危惧される点は、通学路の安全確保は、直接的に児童生徒の生命にかかわる事業である。115箇所という危険箇所は、十分な精査したうえで早期対応を

お願いしたい。加えて、小学校の学校不適応児童が増加傾向にあることについても、早期かつ適切な対応・対策を講じていただきたい。

③生涯学習の推進について

家庭及び地域の教育力の高めるために、多岐にわたる取組がなされ、着実な成果につながってきている。たとえば、小中学校新入学説明会等において保護者を対象に実施されているメディア安全講話は、社会問題となっているメディア問題から児童生徒を守るために意義ある事業と捉えている。ココロねっこ運動とともに、家庭教育7か条を各家庭に浸透させていくために、学校や地域と連携しての地道な取組を継続していただきたい。

さらには、市青少協と市子連が統合して立ち上げられた「雲仙市青少年・子ども育成会議」は、市内各町の青少年育成事業に弾みをつけ、地域の教育力向上の要となっている。地域の若手リーダーの育成も視野に入れながら、一層の事業の充実と発展に期待したい。

読書環境の充実のために、図書館や公民館図書室が充実してきていることは大いに評価したい。とりわけ、愛の夢未来センター愛野図書室の開設に、市民は大きな期待を寄せていると考える。大人にとっても子どもにとっても魅力ある図書館が増え、読書活動の推進が一層図られるものと期待している。課題となっている移動図書については、関係者のニーズを考慮しての見直し検討を図っていただきたい。

多様な講座の実施がなされている市民講座は、市民ニーズに応えた事業となっており、参加者の満足を多く得られていることが何よりである。若者や男性の参加者が少ないという課題に対しては、できるだけ多くの対象者に対してアンケートを実施するなど、その解決の糸口を探る手立ての検討をお願いしたい。

また、人権啓発活動の一環として、市内小中学校で実施されている「瑞宝太鼓『夢大使』講演会」は、障がいを持った方への理解が深まることで、児童生徒の人権意識の高揚が図られ、人権教育の充実のために高く評価できる事業である。達成目標にもあるように、人権映画上映会や講演会等は、公民館や図書館のイベントと連携して開催することで、市民の人権意識の啓発につながる効果的な事業になっていくと考える。

④文化芸術の振興と歴史の継承

本物の文化芸術等に触れた時の子どもたちの笑顔や感動は、夢を膨らませ豊かな心を育む。毎年、文化芸術活動が小学生や親子、そして一般市民を対象に広く開催されていることは、豊かな市民生活に大きく寄与しているものと評価している。「愛の夢未来センター」を活用した自主文化事業の公演も、大いに期待されるものである。

市民主体の文化活動も、市民音楽祭や市民美術展覧会等、毎年充実した事業が展開されているが、諸事業を支える雲仙市文化連盟や雲仙市文化会館自主文化事業振興会等の組織の高齢化が危惧されるところである。後継者育成として、徐々にでも若い世代を取り込み、新風を吹き込んでいくことで、組織の在り方や活動内容が改善され、より活性化していくと考える。

伝統文化の継承や郷土芸能団体の育成については、後継者不足や継承困難な状況の中、絶やさないための支援がなされていることが評価される。文化財保護啓発や埋蔵文化財の保存活用についても、さまざまな工夫がなされ、市民の関心も高まっていることがうかがえる。さらなる事業推進に期待したい。

⑤スポーツの振興について

運動やスポーツ活動に関心を持っている市民は多く、日常的に取り組んでいる人の割合も増加傾向にある。教室や大会の実施と支援など、スポーツ環境の整備がなされていることは、大いに評価されるべきと考える。水泳教室や陸上教室、市民ラジオ体操会の開催など、誰もが気軽に参加できるような事業が、一層市民全体に広がっていくことを期待するところである。スポーツの競技力向上やジュニアスポーツの推進に当たっては、市体育協会や競技団体、振興会等団体に対する運営支援及び奨励事業の充実が求められる。人口減少に伴う構成員不足の問題は、今後一層歯止めが困難な状況になっていくことが予想される。さまざまな手立てを講じ、質の向上を目指した取組を期待している。

快適な活動の場の提供として、多くの社会体育施設の維持・管理が細やかになされ、利用者に快適性と安心感をもたらすものとして高く評価したい。その中で、耐震補強が必要な施設については、利用者が安心して使用できるよう早急な対応をお願いしたい。併せて、他社会体育施設についても、定期的かつ継続的な安全点検と維持・管理のもと、利用者数の増大につなげていただきたい。

雲仙市教育方針のもと、「雲仙市教育振興計画」による施策方針の具現化を目指し、教育行政諸問題と対峙しながらの真摯な取組に対して、改めて敬意を表するとともに雲仙市教育委員会の一層の発展を祈念し、「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に係る点検・評価に関する報告書」に対する所見とします。

令和元年8月16日

江 川 儀 平